第２期西東京市子ども読書活動推進計画
２年間の成果と課題
第３期推進計画の策定に向けて
(報告書)

平成 26 年３月

西東京市教育委員会

目　次

はじめに…… ２

Ⅰ　第２期西東京市子ども読書活動推進計画概要（抜粋）…… ３

Ⅱ　家庭・地域における読書活動の推進…… ６

Ⅲ　保育所（園）における読書活動の推進…… ８

Ⅳ　児童館・学童クラブにおける読書活動の推進…… 10

Ⅴ　学校における読書活動の推進…… 12

Ⅵ　図書館における読書活動の推進…… 22

資　料

１　アンケート…… 34

２　用語の解説…… 51

３　第２期西東京市子ども読書活動推進計画実施計画…… 58

(1)　家庭・地域における読書活動推進計画実施計画
(2)　保育所（園）における読書活動推進計画実施計画
(3)　児童館・学童クラブにおける読書活動推進計画実施計画
(4)　学校における読書活動推進計画実施計画
(5)　図書館における読書活動推進計画実施計画

はじめに

西東京市は、子どもたちの読書に対する関心は高く、先進的に取り組んでいる地域です。市立の小学校や中学校には、他市に先駆け、学校図書館専門員が配置されており、児童や生徒の読書活動の支援を行っています。また、市内の保育所（園）、児童館、学校、図書館などの各施設では、職員や地域ボランティアの読み聞かせが行われ、子どもたちが本を好きになるように支援活動を行っています。

西東京市では、子どもたちに関わる施設と家庭・地域が協力し、子どもたちがいつでも必要な本を手に取れる環境を整備し、「生きる力」を育むことを目的に、平成 18 年３月に「西東京市子ども読書活動推進計画」を策定しました。本計画は、一定の成果を生み出しましたが、課題もいくつか残りました。

平成 23 年３月に策定した「第２期西東京市子ども読書活動推進計画（平成 23 年度～平成 27 年度）」は、前計画の反省をふまえ、広く市民に計画の周知を図ることを目的に、「子どもの本まつり」を開催し、関係機関の取り組みをパネルにした展示や、絵本作家の講演、地域ボランティアの読み聞かせ等を実施し、多くの市民に参加いただきました。

第２期の計画も計画期間の半分が経過し、平成 25 年度はそれぞれの機関の取り組み状況の調査、分析を行いました。

中間報告書の内容ですが、計画の対象者である市立全小学校の３年生と５年生（各学校１クラス）、並びに、市立全中学校の２年生（各学校１クラス）を対象にアンケートを実施し、その結果を掲載しています。

また、家庭・地域、保育所（園）、児童館・学童クラブ、学校、図書館の関係機関では、それぞれの機関で、現在の状況の確認及び成果や課題について検討を行いました。

子どもたちの読書力の向上と読書環境の充実を目指し、関係機関の個々の活動をいっそう充実させ、子どもたちにとっての豊かな読書環境を作っていくため、今まで以上に関係機関が連携してニーズに対応していくことが必要です。この中間報告書は、「第３期西東京市子ども読書活動推進計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」を策定する際の資料として活用していきます。

Ⅰ　第２期西東京市子ども読書活動推進計画概要（抜粋）

１　計画の目的

子どもたちは読書活動を通じて、楽しく言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めます。また、多くの人の考えや生き方に触れることにより、自らの視野を広げ、ものごとを深く考えることができるようになるともいわれます。さらに、必要な情報を選択して適切に活用する情報処理の能力も培われます。

この計画は、子どもたちが自主的に読書に向かうことができるように配慮しながら、誰もがいつでも必要な本に手の届く環境を整備し、子どもたちが上記のような力を身に付け、「生きる力」を育むことを目的とします。

２　計画の位置づけ

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成 13 年 12 月 12 日法律第 154 号）第９条第２項の規定に基づいたものです。

「西東京市教育計画（教育プラン 21）」(用語 1)、「西東京市生涯学習推進計画」(用語 2)、「西東京市子育て支援計画（西東京市子育ち・子育てワイワイプラン）」(用語 3) を踏まえて策定した、平成 18 年度から平成 22 年度までの５ヵ年計画である「西東京市子ども読書活動推進計画」が、今年度終了するにあたり、継続して策定します。

３　計画の期間

平成 23 年度から平成 27 年度までの５年間とします。計画の進ちょく状況は確認をしていき、必要に応じて見直しを行っていきます。特に、中間年度（平成 25 年度）には、計画の進ちょく状況を確認し、見直しの結果を公表します。

４　計画策定の基本的理念

本来、読書は個人の自主的な活動です。本計画においても個人の自主性は最も尊重され、すべての取り組みの前提となります。本計画は、０歳から 18 歳という心身ともに成長する世代を対象とするため、その発達段階を十分に考慮した内容となっています。

子どもたちがその発達段階にふさわしい本と楽しい出会いを経験するためには、子どもと本をつなぐ「人」、子どもが本に親しむ「時間」と「場所」が保障されなければなりません。市内のすべての子どもが読書を楽しむことができるよう、市と市民はそれぞれの立場で子どもたちの読書を支える活動を推進し、協働して、その環境整備を進めます。

５　読書活動の年齢別の特性

（１）乳児期（０～２歳）

身近な人の語りかけが重要です。わらべうたや温かい語りかけをくりかえし体験する中で、この時期の子どもは人を信頼し、ものへ興味を示し、言葉を獲得していきます。この時期の子どもにとって、本を通じた親子またはそれに準ずる人とのコミュニケーションが大きな目的です。

（２）幼児期（３～５歳）

言葉に対する関心が高まり、物語を理解することができるようになり、絵本に強い興味を示し始める時期です。本は生活の一部となり、身近な人に日常的に読んでもらう体験の積み重ねが必要です。素ばなし（用語 4）も楽しめるようになり、物語の世界に入り込み想像の翼を広げる喜びを覚えます。また、しだいに知的な関心も広がり、様々な分野の本が好きになる頃です。

（３）小学生期

文字を習得し、読んでもらう喜びだけでなく、自分で自由に本を読む喜びを知っていく時期です。読書を通して、知識の獲得だけでなく、様々な人や考えに触れ、自分の世界を膨らませていけるよう身近に関わる大人たちの適切な働きかけが必要です。この時期に、調べ学習(用語 5)のように目的を持った読書体験を積み重ね、本を資料として活用する方法を身につけることは、生涯の糧となります。自主的、主体的読書の習慣を身につけていく大切な時期です。

（４）中学･高校生期

中学生になる頃には、自分について考え、友だちや身近な大人に対して、それまでとは違う視点を持つようになります。本に対しても作者の作風や考え方によって、好みの作家やジャンルがはっきりしてきます。本を読むことが個人的な悩みや問題を克服するきっかけになることもあり、自分の興味･関心のある分野では、大人と同じように専門的な知識や情報を求めるようになります。一方、大人が薦めたい本と自分で読みたい本が違う時期でもあります。行動範囲が広がり、いろいろなところで本や雑誌を手に入れることもできます。読む本の内容･量ともに個人差が大きくなり、大人の読書に近づいていきます。

６　読書活動推進のための基本方針

（１）子どもと本の出会いの場を子どもの身近なところで数多く設定します。

特に乳幼児期から小学生期にかけては、子どもが出かけやすい場所で、本と出会えることが大切です。子どもが本を読むことの楽しさを自ら発見できるよう、身近な場所に子どもの成長・発達段階に合った適切な本が自由に選べる環境を整備していきます。

市立図書館を中心に蔵書を整備し、団体貸出（用語 6）等の制度も活用して児童館や学校・保育所（園）･幼稚園等の関係機関、市民団体･グループの子どもの読書活動を支援します。

（２）学校図書館（用語 7）の一層の活用を図ります。

自主的、主体的読書の習慣を身につけていく上で学齢期は特に大切です。この時期の学校図書館の働きかけは、子どもが本を身近に感じ、主体的な学習に活用していくために重要な役割を持っています。その役割を実現するには、市立図書館との連携をさらに強め、資料の整備を図り、司書教諭（用語 8）を中心に、学校図書館専門員（用語 9）の高い専門性を活用しながら、学校全体で子ども読書活動を推進する計画や体制を作り実行していきます。

（３）子どもの読書に関わる諸機関や市民団体・ボランティアの連携を進めます。

子どもの自主的な読書の場と機会を広げるために、家庭・地域社会における諸機関（市の健康課等行政機関・児童館・幼稚園・保育所（園）・公民館等）・市民団体（子ども文庫（用語 10）・おはなしや児童書の勉強会・学校での読み聞かせグループ（用語 11）など）のネットワークづくりを支援し、協力して活動を展開します。この連携にあたって、市立図書館が情報・人の交流の場となり、資料の提供や助言等具体的な活動支援を行います。

（４）子どもの読書について大人への啓発と支援を行います。

図書館・学校等で、保護者をはじめ子どもと身近に関わる大人に対し、子どもの読書に関する学習の機会を提供し、読書についての相談等の支援に努めます。とりわけ乳幼児の保護者や保育者等、まだひとりで本を読めない子どもに関わる大人には、子どもの読書の大切さと大人の果たす役割を理解して取り組めるよう、十分な支援を行います。

（５）「第２期西東京市子ども読書活動推進計画」の周知を図ります。

第２期計画をより豊かに実施するための講演会や研修会を企画します。

Ⅱ　家庭・地域における読書活動の推進

基本方針：　家庭地域における子どもの読書活動の課題解決のため、子どもと本をつなぐ、様々な地域活動を支援し、その連携に協力します。

特に乳幼児期の子どもの読書環境は保護者の意識に大きく左右されることを踏まえ、読書の子どもへの影響や効果について知らせる方法を検討しますが、その際、保護者が自ら気づけるような働きかけとなるよう留意することが重要です。

１ 情報提供

	読書推進を目的とする団体に関するわかりやすい一覧表を作成して、図書館ホームページなどで提示します。	
	現状	図書館で団体の把握はしていると思いますが、ホームページでの公開はされていません。
	課題・改善点	文庫・勉強会・人形劇等「読書活動推進を目的とする団体」の基準を明確にする必要があります。 公開にあたっては、毎年度調査・更新の必要があります。 定期的に、公益社団法人より図書館への調査・更新があります。こちらを活用しながら、公開については協議が必要です。

２ 市民との連携、協力

（１）	図書館主催の子ども読書活動推進に関する講演会や講座の内容の充実を図り、市民の要求に即したものにするために、市民との企画段階からの協働を検討します。	
	現状	団体の中には、図書館主催の子ども読書活動推進計画に関する講演会、講座の企画に協力することがあります。また、市民団体出資の講演会に図書館の共催という形で、協力を得ています。
	課題・改善点	図書館との共催で場所の確保、講座への安心感、ＰＲの充実というメリットがあり、よい協力関係はありますが、年に１回はアピールの意味で、図書館主催の講座講演会の実施を希望します。 図書館主催の子どもを参加対象とする講演会や講座の企画を希望します。
（２）	おはなし会（用語 12）に協力する市民団体と情報交換を密にして、おはなし会等の質の向上を図ります。	
	現状	市内各館で情報交換の頻度や連絡体制が異なりますが、図書館が全体の状況把握をしています。団体は図書館を通じて、情報を共有しています。
	課題・改善点	図書館のおはなし会の記録の共有を希望します。 研修会等を持ち、共通の認識を持っておはなし会を開催していきます。

３ 子どもの読書に関わる市民団体への支援

	読書推進を目的とする団体の交流会を持ち、成果を冊子作りなどの形にします。このネットワークによって、一般の保護者への啓発活動を全市的にすすめることができます。	
	現状	ネットワークづくりを検討しています。
	課題・改善点	読書推進を目的とする団体の把握をしていきます。

４ ボランティアの育成

（１）	図書館が育成したボランティアについても、ある期間の後は他のおはなし会ボランティア（用語 13）と同様に、自立するための支援をしていきます。	
	現状	図書館が育成したボランティアは、有志で情報交換、勉強の場を持っています。
	課題・改善点	図書館から、全ボランティアに対し、図書館のおはなし会に協力していくために必要な資質について折々に働きかけ、選書と読み聞かせの技術を向上できるような場を希望します。
（２）	（１）のためにも、おはなし会ボランティアの活動の仕方や役割について、各館で共通のルールを持つ必要があり、今後ルールを整備します。	
	現状	養成したボランティアと以前から活動している団体のボランティア間の位置づけが明確ではありませんが、平成 25 年度におはなし会での取り決めを確認しあいました。
	課題・改善点	養成されたボランティアだけでなく、既存の団体へも働きかけ、不十分な場合には互いにルールの確認をしていくことが必要です。 年度に１回は全ボランティアに対して、おはなし会を主催する図書館からボランティアに必要な資質や役割について確認することを希望します。

５ 子どもの読書に関わる市民団体への出前講座

	市民団体の要望に積極的に応えて実施し、その内容を報告します。	
	現状	市民の要請に良く応えてもらっています。
	課題・改善点	今後の継続を希望しますが、図書館担当職員のスキルアップにもつながるので、図書館が宣伝をすすめていくことも必要だと思います。

Ⅲ　保育所（園）における読書活動の推進

基本方針：　乳幼児にとって大好きな大人から絵本を読んでもらう経験は、情緒の安定や言語・認識等の発達にとっても大切なものです。保護者にとっても、子どもと喜びを共有することで育児の活力や楽しみとなります。そのような機会と場を多く提供し、絵本に親しめる環境を整え、家庭や地域にも働きかけ連携しながら子どもの読書活動を支援します。

１　子どもが本に出会い親しむ機会を多くします。

(1)環境整備	図書の充実、絵本の広場やコーナーの設置を組織的・計画的に行います。地域のボランティアなどと連携しながら、おはなしや読み聞かせの楽しさが十分経験できる機会を保障します。	
	現状	各園で絵本の点検・買い替えを定期的に行い、各クラスに年齢や発達段階に応じた絵本を設置するなどしています。 またボランティアと連携し、お話しの会を定期的に持つなどして、子ども達がお話しや読み聞かせの楽しさを経験できる機会を設けています。
	課題・改善点	現状のまま進めていきます。
(2)家庭への働きかけ	地域子育て支援センター（用語 14）を中心としながら、地域の子どもたち及び保護者に本の魅力や楽しさを体験してもらい、家庭での読書活動を支援します。 園児の保護者に対しては、図書の貸し出しや絵本だよりの発行・園だよりでの絵本の紹介を行いながら絵本の楽しさを伝えていきます。	
	現状	各センターの対象者向けに「ちいさなおはなし会」などを開催し、地域の子どもの保護者に絵本やお話しを紹介しています。センター独自の本棚では小さい子むけの絵本をそろえて貸し出しを行っている園もあります。
	課題・改善点	センター利用者の年齢が低い為、小さい子向けの絵本をより充実させるのが今後の課題という園もあります。

２　職員の研修

	保育所（園）の職員に読書活動をすすめるための研修を行います。	
	現状	読書活動に特化した研修は開催しませんでしたが、ＮＰＯや保育サークルでの絵本作者講演会や、お話し会に参加する職員はいます。また職員の自主学習会で「絵本・素話」のテーマでの学習会を設置するなどして、職員全体の意識を高めることを意図してきました。
	課題・改善点	今後、研修の体系を整理する中で、読書活動への意識を更に深めていきたいと思います。

３ 広報活動

	園だよりでは園の取り組みや子どもたちの様子等を紹介します。また、地域の保護者にむけての広報活動を行います。	
	現状	園だよりなどで絵本の紹介を行っています。 「絵本便り」という形で広報活動を行っている園もあります。
	課題・改善点	現状のまま進めていきます。

４ 体験

	保育活動の中で、子どもたちの図書館利用を増やすことを検討します。また地域のおはなしボランティアとの連携を行うなど、子どもたちの経験の幅を広げていきます。	
	現状	具体的な回数については把握できませんが、各園とも図書館利用は、保育計画の中に組み込まれています。 地域のおはなしボランティアとの連携もスムーズにいっています。
	課題・改善点	現状のまま進めていきます。

５ 地域への働きかけ

	地域子育て支援センターを中心にして各園で行っている地域交流事業の中で子どもの本や読書についての啓発活動を行います。	
	現状	０才児対象の事業から絵本を取り入れています。センター開催のみならず地域へ出ていく事業の際も必ず絵本を読んでいる園も多くあり、啓発活動は順調に進んでいます。
	課題・改善点	現状のまま進めていきます。

Ⅳ　児童館・学童クラブ（用語 15）における読書活動の推進

基本方針：　地域で児童の健全育成を図る子どもたちの活動拠点として、子どもたちが豊かな感性と知性を育めるように、乳幼児期から本と出会って関心を持てるように支援します。

1　環境整備

身近な公共の施設として本と出会える環境整備と充実をめざします。

（1）	地域の子育ての拠点として、気軽に使える育児関係の本を提供し、たくさんの絵本に出会える機会を作ります。	
	現状	幼児室に育児の本や絵本を置いて、気軽に手に取れるようにしています。また、乳幼児活動時には育児本や絵本の紹介をしたり、絵本の貸し出しをしています。
	課題・改善点	新しい本がなかなか揃えられない状況がありますが、今後は、新しい本を揃えられるように努めてまいります。
（2）	今後はますます図書館と連携して、図書室の図書の充実や、絵本の読み聞かせ・団体貸出・図書の情報の提供等を推進します。	
	現状	複数の児童館では毎月合同で図書館職員による読み聞かせ活動を継続して行っています。 図書館の団体貸出図書を利用したり、除籍本を再活用しています。
	課題・改善点	選書や書架の整理など図書室の充実のために近くの図書館と連携して推進していきます。

2　図書室の整備

	図書室を、より本に親しみやすい読書スペースとして整備します。読書意欲を促進するために、本の紹介や図書室の雰囲気づくりを工夫します。	
	現状	多くの児童館では、図書室は気軽にくつろげる雰囲気ではありますが、落ち着いて読書が出来る環境には至っていない状況があります。
	課題・改善点	落ち着いて読書が出来る環境整備と本の紹介や読む楽しさを伝える工夫をするように一層努めていきます。

3　本の整備と活用

	遊びの場として、遊びの本や行事等と関連した本の紹介をし、充実に努めます。	
	現状	乳幼児活動の中で読み聞かせの時間を設け、本の紹介に努めています。小学生に関しては、折り紙やコマ、あやとりなどの遊びの本を紹介しています。中高生向けには、中高生利用の多い委託館で、スポーツの基礎技術に関する本や、競技の月刊誌・特集誌を取り揃えています。
	課題・改善点	遊びの本の紹介を中心に、今後は情操的指導も含め、積極的に取り組んでいきます。

４ 読み聞かせ

	本の楽しさを知ってもらうために読み聞かせ活動を行い、子どもや保護者の読書への関心を高めます。	
	現状	職員や地域のボランティアサークル等が定期的に行っています。子どものみならず、保護者にも本を紹介し、読み方のアドバイス等もしています。職場体験の中学生にも読み手の体験をしてもらっています。
	課題・改善点	小学生の参加を促すため、職員もスキルアップし、日頃から、本の楽しさを伝えていくように努めます。また、読み聞かせに集中できるような環境をつくっていきます。

５ 人材活用

	地域の人材を活用した読書活動を充実させます。	
	現状	ほとんどの館でボランティアやお話の会の方々が活動しています。
	課題・改善点	さらに地域の人材を活用するために、ボランティアの方などと連携を図り、積極的に受け入れていきます。 また、もっと多くの機会を提供し、回数と対象を拡げていきます。

６ 学童クラブ蔵書の充実

	児童館に併設していない学童クラブについては、子どもが、本を読みたい時にいつでも読むことのできる環境を整え、図書館と連携して蔵書の充実を図ります。	
	現状	多くの学童クラブでは団体貸出図書を利用しています。 地域の方による読み聞かせを行ったり、帰りの会等に読み聞かせをしています。
	課題・改善点	学童クラブ自体の蔵書が少ないため団体貸出図書を利用したり、除籍本を再活用しています。

Ⅴ　学校における読書活動の推進

基本方針：　東京都の「子ども読書活動推進計画」では「学校において、子ども一人一人が読書の楽しさを味わい、調べ学習において目的をもって読書を行うことにより、読書のよさを体験し、生涯にわたって読書をしていけるようにすることが大切である。」としています。

学校図書館は、読書活動により、想像力を広げ、思考力を高め、生涯学習における自己教育力を育む場所です。児童・生徒が自由に、楽しく利用できる学校図書館を作り、児童・生徒の読書活動が活発に行われる学校図書館をめざします。

1　学校図書館の充実

(1)蔵書数、蔵書内容の充実

児童・生徒の、「学校図書館へ行けば目的の本があるかな、楽しい本があるかな」という期待に応えられるように、年間指導計画（用語 16）を基に、図書購入を計画的に行います。

<table>
<tr><td>①</td><td colspan="2">引き続き蔵書数の充実を図るとともに、内容の古い資料や消耗の激しい資料については買い替えをするなどをし、年間指導計画に基づき計画的に購入していきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>現状</td><td>各校に配置している学校図書館専門員が、担当校の学校図書館の蔵書・資料を点検し、計画的な入れ替えを行っています。資料についての情報も常時収集しています。</td></tr>
<tr><td>課題・改善点</td><td>新規図書購入について、学校図書館専門員や司書教諭だけに頼らず、全教員が計画策定により一層関与していけるしくみを全校で作る必要があります。
大規模校は、充足率が上がるにつれて、書架不足が課題となります。</td></tr>
<tr><td>②</td><td colspan="2">教科書の変更に伴い、学習指導で必要と思われる資料の再検討を図り、学校図書館の蔵書と学習内容の整合性に努めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>現状</td><td>司書教諭と学校図書館専門員が連携し、学習に必要な図書や資料の整備に努めています。</td></tr>
<tr><td>課題・改善点</td><td>図書整備についてＰＤＣＡサイクル（用語 17）を確立し、より一層の充実が図れるようにします。
学校図書館に教科書等を資料として置き、活用を図っていきます。</td></tr>
<tr><td>③</td><td colspan="2">郷土資料や国際理解に関する資料、新刊の情報等テーマに沿った資料を収集し積極的に活用していきます。</td></tr>
</table>

	現状	司書教諭と学校図書館専門員が連携し、学習に必要な図書や資料の整備に努めています。また、活用例について学校図書館専門員が発行する教員向けの図書便り等で紹介しています。
	課題・改善点	図書整備についてＰＤＣＡサイクルを確立し、より一層の充実が図れるようにします。司書教諭研修等で、活用例について紹介し、充実を図ります。 郷土資料については所蔵登録できない物が多数あります。小学校中学年が利用できる郷土資料の整備(作成)をしていきます。
④	学校図書館専門員は、教科書の変更に伴い「教科書参考資料リスト（用語 18）」を見直すとともに、学習で必要となる資料について司書教諭や図書担当教員と共通理解を図りながら蔵書内容を充実させていきます。	
	現状	司書教諭と学校図書館専門員が連携し、学習に必要な図書や資料の整備に努めています。 「教科書参考リスト」は授業に活用されています。
	課題・改善点	学校図書館専門員連絡会での情報交換を充実させています。 資料提供後フィードバックしながら、より充実した資料を揃えるように努めます。司書教諭との情報共有に努めます。

（２）施設設備の充実

児童・生徒が図書館へ来た時、「楽しかった、また行きたい」という気持ちになるよう整備に努めます。

①	コンピュータによる総合的な蔵書管理システム（用語 19）が、より使いやすいものになるよう利用の仕方を工夫します。	
	現状	ＬＢ＠ｓｃｈｏｏｌ（用語 20）を全校に配備して、コンピュータによる総合的な蔵書管理システムを行っています。バーコード読み取りなどで利便性を図っています。
	課題・改善点	
②	読み聞かせコーナーや学習コーナーなどが楽しく利用できるよう工夫していきます。	
	現状	司書教諭と学校図書館専門員が連携し、児童・生徒が楽しく利用できる工夫を行っています。 小学校には読み聞かせコーナー、中学校には学習コーナーがあるところが多いです。
	課題・改善点	学校図書館内の配置等に工夫が必要になります。
③	机、椅子、書架、掲示板等の環境を整備し、気持ちのよい環境づくりに努めます。	

ア	蔵書点検を定期的に実施し、図書資料管理の徹底が図られるよう努めます。	
	現状	学校図書館専門員が計画的に実施し、図書資料の管理を行っています。多くの学校が実施しています。
	課題・改善点	資料の管理に努めます。
イ	各学校の学校図書館の設備、条件に合わせて、読み聞かせコーナー、参考図書コーナー、学習コーナーなどを設置し、機能的で効果的な学習・読書環境を整備するとともに明るい雰囲気で読書ができるように努めます。	
	現状	司書教諭と学校図書館専門員が連携し、児童・生徒が明るい雰囲気で利用できる工夫を行っています。
	課題・改善点	校内事情で工夫を重ねていきます。
ウ	学校図書館の掲示板の充実を図るために、季節や学習内容、読書週間や読書旬間にあわせて掲示し、読書意欲を喚起するような工夫をしていきます。	
	現状	司書教諭と学校図書館専門員が連携し、児童・生徒が読書意欲を喚起するような工夫を行っています。親しみやすい学校図書館とするために各校で工夫をしています。図書委員が活躍している学校も多数あります。
	課題・改善点	学校図書館内の配置等に工夫が必要になります。

2 読書指導の充実

（1）読書時間の確保

児童・生徒が、「本が読めるから楽しい」と思える時間を確保し、日常生活の中で、いつでも本を読める環境を作ります。

①	朝読書、業間読書など一斉読書（読書週間、旬間、月間など設定し行うことも考えられる）の時間を利用し読書の習慣化を図ります。	
	現状	全校で、年間を通して計画的に実施しています。また、11 月を西東京市読書月間とし、読書活動を通した情操教育を推進しています。
	課題・改善点	
②	市立図書館からの団体貸出を利用したり、必要な図書を集めたりするなど工夫し、いつでも身近に本を手にすることができるよう学級文庫（市立図書館や学校図書館が各教室に貸し出した図書）を充実させます。	

	現状	各校の年間指導計画に即して、学習活動の目的にあった団体貸出による資料収集を行ったり、学級図書の充実のための団体貸出を行っています。
	課題・改善点	身近な教室に本があることの良さを伝え、利用をすすめます。管理を徹底します。
③	児童・生徒の身近にいる教職員が、本の楽しさを伝える人となれるように研修に努めます。	
ア	朝読書や授業以外の時間を利用して、読書活動を全校一斉に実施し、読書の習慣化に努めます。	
	現状	各校で読書週間や読書旬間・月間を設定し、読書活動の推進に努めています。
	課題・改善点	
イ	中学校では、「読書交流会（合同書評会）（用語 21）」等を開催し、読書の幅を広げて、読書の楽しさを伝えます。	
	現状	毎年、課題図書を選定し、実施しています。また、参加校が増加しています。
	課題・改善点	合同書評会に参加する生徒や協力する市民の数を増やしていきます。 中学校校長会が主催して実施してきましたが、平成 26 年度より教育委員会と連携して実施していきます。全校参加のための、日程その他の調整を図ります。
ウ	小学校では、朝や放課後の時間を活用して、保護者・地域のボランティアによる読み聞かせやおはなし会を企画するとともに定期的に開催するなど、児童が本と出会う機会を多くもつよう努めます。	
	現状	各校の実態に合わせて実施しています。低学年への読み聞かせが多いです。
	課題・改善点	各校の取組を紹介し、内容の充実を図ります。
エ	市立図書館からの団体貸出を利用し、学校図書館にない図書資料を補完し、提供するよう努めます。	
	現状	学校図書館専門員が児童・生徒からの要望に応じてレファレンス（用語 22）サービスとして実施しています。借用したものを自校の選書に生かしています。市立図書館の搬送サービスを利用できます。
	課題・改善点	教員を介した要望ではなく、直接子どもが要望する機会を増やしていきます。年間指導計画に基づき、資料購入をすすめていきます。
オ	希望する学級への学級文庫の設置、本の入れ替えなどを行います。	

	現状	学級担任や学年の希望に応じて、学校図書館専門員が市立図書館と連携して実施しています。
	課題・改善点	

（２）各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間（用語 23）及び特別活動（用語 24）における学校図書館の利用

読書センター、学習情報センターとして、児童・生徒が使いやすい学校図書館となるよう努めます。

①	学校図書館利用指導計画を作成し、計画的に活用するよう努めます。また、市立図書館の利用も進めます。	
	現状	司書教諭と学校図書館専門員が連携し、学習や特別活動等に必要な情報を児童・生徒に提供しています。オリエンテーション時に市立図書館の利用をすすめています。
	課題・改善点	計画の活用をすすめていきます。
②	市立図書館や他校と連携し、学習資料の充実を図ります。	
ア	児童・生徒が自主的に図書館を利用できる指導をし、調べ学習のスキルアップを図ります。	
	現状	図書館の利用の仕方について、各校の年間指導計画に基づいて計画的に実施しています。また、国語の時間の学習内容として図書館を活用した調べ学習について学習しています。
	課題・改善点	繰り返し、定着を図ります。
イ	学校図書館専門員は、教員の要請に応じて授業に参加し、児童・生徒へのレファレンスに対応します。また、必要な場合にはブックリストを作成して提供します。	
	現状	学校図書館専門員は、担当校の教員の要請に応じて、学校図書館に関する各種サービスを提供しています。教員の理解が深まり、利用は増えています。
	課題・改善点	情報収集を図ります。計画的に準備ができるように、年度、学期始めに、学年ごとに話し合いの時間が持てるよう、調整を図ります。
ウ	レファレンス活動では、市立図書館や他校との相互貸借を利用して、資料の幅を広げるように努めます。	
	現状	自校にない図書についての要望があった場合は、市立図書館や他校と連携して、図書資料を提供しています。
	課題・改善点	学校間の物流の検討をしていきます。単元が重なり、資料が必要な時期が重なってしまいます。
エ	地域の市立図書館の見学等を行い、公共図書館を身近に感じるよう、利用促進を図ります。	

	現状	学校に近接した場所に市立図書館がある小学校では、児童が見学等を行っています。近隣にない小学校では、市立図書館の職員が学校訪問し、児童に説明をする学校があります。また、中学校では職場体験を実施しています。市立図書館の配布物、掲示物(一日図書館員（用語 25）の募集ポスターなど)を活用することにより、図書館利用の促進を図っています。
	課題・改善点	
オ	蔵書管理システムを有効に活用し、市立図書館や他校との連携を深め、調べ学習のための図書や資料の幅を広げるようにします。	
	現状	自校にない図書についての要望があった場合は、市立図書館や他校と連携して、図書資料を提供していきます。
	課題・改善点	学校間の物流の検討をしていきます。

（３）教職員の共通理解と読書指導の研修

①	教職員の図書館利用の共通理解を図り、全職員で取り組める体制づくりに努力します。	
	現状	校内研修の中で図書館利用について共通理解を図っています。また、西東京市小学校教育研究会図書館部（用語 26）において研究を行い、各小学校に研究内容の普及啓発を図っています。
	課題・改善点	教員研修等は、校内研修との関連で学校ごとに違いがあります。図書館活用計画の中に研修内容を位置付けていきます。
②	西東京市小学校教育研究会図書館部会では、「豊かな読書活動をめざして」のテーマで研修をし、全校へ研究成果を広げていきます。	
	現状	平成 25 年度は、「豊かな読書活動をめざして～良い本との出会いをすすめる工夫～」を研究主題として、研究を進めました。（アニマシオン（用語 27）の研究、および発表）
	課題・改善点	アニマシオンについて研究を深めます。ほかの手法についても研究をします。学校図書館専門員との連携をします。
③	司書教諭と学校図書館専門員及び学校の図書担当教員を対象とした研修を充実します。	
ア	教員による「おすすめ本」のリストを発行するなどして、教員自身が本の楽しさを伝える役割があることについて認識を高めていきます。	
	現状	各学校ごとに、教員が勧める本のリスト等を作成し、児童・生徒が読書活動に興味・関心をもつように工夫しています。
	課題・改善点	時期、やり方に工夫が必要となります。
イ	新刊本の紹介やブックトーク（用語 28）の実技研修、授業研究、読書感想文の選定等を行い、読書指導の充実を図ります。	

	現状	学校図書館専門員連絡会において、新刊本の紹介やブックトーク等について情報交換を行っています。また、西東京市小学校教育研究会図書館部会では、授業研究、読書感想文の選定等を行い読書指導の充実を図っています。
	課題・改善点	
ウ	教育委員会主催による、年２回の司書教諭及び図書担当教職員並びに学校図書館専門員を対象とした研修会を開催し、教職員及び学校図書館専門員の校内の連携の在り方や学校図書館教育の充実を図ります。	
	現状	教育指導課として平成 25 年度は、学校図書館専門員連絡会を年間４回、司書教諭研修会を年間２回実施して、校内の連携の在り方や学校図書館教育の充実を図りました。
	課題・改善点	研修会の内容を校内に還元していくように努めます。
エ	教育委員会主催による、年４回の学校図書館専門員を対象とした学校図書館専門員連絡会を開催し、各学校の施設状況に応じた特設コーナーの設置状況や学校図書館専門員が行っている図書指導についての情報提供を行い、学校図書館教育のさらなる充実を図ります。	
	現状	教育指導課として平成 25 年度は、学校図書館専門員連絡会を年間４回実施して、情報交換や資質向上のための研修を行いました。
	課題・改善点	新しく本市に配置した学校図書館専門員への研修を充実させます。共通の課題解決について図ります。
オ	学校図書館専門員は、教職員向けの「図書だより」等を作成し、新刊本の紹介や、学校図書館及び児童・生徒の現状等を共有するように努めます。	
	現状	学校図書館専門員は、担当する学校の校長の経営方針を受け、教職員向けの「図書だより」等を作成し、教員の質向上に向けた情報提供を行っています。
	課題・改善点	学校図書館専門員の資質によるところが大きいため、各校の内容に違いがあります。情報交換等を密に行い、西東京市全体で内容の充実を図っていきます。

（４）図書委員会の活動の充実

①	児童・生徒がお互いに、本について話し合えるように、児童・生徒による活動の活発化に努めます。	
	現状	市立小・中学校全校で特別活動として図書委員会を置き、児童・生徒自身による読書活動が充実するようにしています。
	課題・改善点	ＬＢ＠ｓｃｈｏｏｌの操作は教員の管理下で行っています。子どもだけでも安全に操作できるシステムを構築すれば、更に図書委員会の活動を充実することができます。

②	読書会、委員会だよりなどの活動を通して、読書活動の楽しさを伝えます。	
ア	図書集会や休み時間を活用して、児童に対して推薦図書の紹介や読み聞かせを行います。	
	現状	各校の活動計画に従って、集会、図書の紹介、読み聞かせなどの活動を行っています。
	課題・改善点	計画的に準備を行い内容の充実を図っていきます。
イ	読書標語や推薦図書等を印刷した「しおり」を作成するなど、日常的に本の話題が出るよう努めます。	
	現状	各校の活動計画に従って、日常的に本に親しめるための活動を行っています。
	課題・改善点	計画的に準備を行い、内容の充実を図っていきます。
ウ	中学校では、委員会のおすすめの本のリストを作成したり、「読書会」や「読書座談会」（用語 29）等を企画して、生徒が主体となって委員会活動の範囲を広げられるよう工夫します。	
	現状	各校の活動計画に従って、創意ある活動を行っています。
	課題・改善点	広報の仕方を工夫するなどして、参加者を増やすように努めます。
エ	小学校では、本の紹介ポスターを作成し、委員会新聞や壁新聞を発行して、読書活動の楽しさを積極的に伝えていきます。	
	現状	各校の活動計画に従って、創意ある活動を行っています。
	課題・改善点	計画的に準備を行い、内容の充実を図っていきます。
オ	学級文庫の選書や管理を委員会に任せることで、委員としての自覚を高めていけるように努めます。	
	現状	学級文庫の選書や管理については、小学校では委員会ではなく学級の係活動として行っている場合が多いです。中学は一部実施しています。
	課題・改善点	活動内容に自主的・自発的な内容を取り入れるなどして、委員としての自覚を高めていきます。

3 学校図書館利用の充実のための人的配置と人材活用

児童・生徒の生活の中に、本が生かされていくように努めます。

（1）	司書教諭と学校図書館専門員との連携により、児童・生徒が利用しやすい学校図書館を目指します。

	現状	校長の経営方針に基づき、司書教諭と学校図書館専門員との連携により、児童・生徒が利用しやすい学校図書館を運営しています。
	課題・改善点	経営方針をより反映させた学校図書館の運営。司書教諭と学校図書館専門員が一層連携を図り、利用しやすい学校図書館を運営していきます。
（2）	司書教諭や図書担当教員が中心となり、授業時間における学校図書館利用を促して、図書資料の提供や学級文庫の設置を行います。	
	現状	小学校では、固定時間割りの中に学校図書館利用割り当てを決めて、計画的な利用をしています。中学校では、年間指導計画の中で学校図書館利用の時期を決め、利用をしています。
	課題・改善点	学校図書館を利用できる教材の開発。司書教諭と学校図書館専門員が一層連携を図り、利用しやすい学校図書館を運営していきます。
（3）	学校図書館専門員は司書教諭や図書担当教員と情報交換しながら、推薦図書の紹介、読書活動啓発資料の発行、季節展示等を行い、児童・生徒の読書傾向を広げるよう努めます。	
	現状	各校の実態に合わせた啓発資料の発行、季節展示等を行っています。
	課題・改善点	司書教諭と学校図書館専門員が情報を共有できる仕組みを工夫していきます。
（4）	司書教諭や図書担当教員が中心となり、保健指導や給食指導と関連付けての企画や「読書会」「詩の朗読会」などの開催等、読書の意義や楽しさを伝える様々な取り組みを行うよう努めます。	
	現状	学校図書館専門員と各校の教職員が連携し、学校の教育活動と関連付けた取り組みを実施していきます。
	課題・改善点	学校図書館専門員連絡会で情報交換を行い、活動を広げていきます。学校行事等、様々な機会をとらえて、より広い取り組みを行っていきます。
（5）	司書教諭や図書担当教員とボランティアで情報交換を行いながら、児童の発達段階や興味・関心等の実態に応じた図書を選定し読み聞かせ等を行います。	
	現状	学級担任と連携して図書の選定を行い、読み聞かせ等を実施しています。
	課題・改善点	今後も継続していきます。
（6）	小学校では、読み聞かせやおはなし会を保護者や地域と協働して開催し、子どもたちに本の楽しさを伝えるよう努めます。	
	現状	校長の経営方針に基づき、保護者や地域と連携した図書に関するイベントを実施しています。
	課題・改善点	保護者・地域との連携には、副校長が関与することが多く、学校図書館専門員と副校長との連携を更に深めていきます。

４ 家庭への啓発

保護者会や、図書館だよりなどで読書の意義を説明し、児童・生徒が本に親しむ機会を作るように働きかけていきます。

<table>
<tr><td>（１）</td><td colspan="2">学校図書館専門員は「図書だより」を定期的に発行し、学校での読書活動に関わる取り組みを周知して、家庭での読書活動の促進に引き続き努めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>現状</td><td>学校図書館専門員は「図書だより」を定期的に発行し、家庭への啓発を行っています。</td></tr>
<tr><td>課題・改善点</td><td>「図書だより」の内容の中心は児童・生徒向けであるため、長期休業前など、保護者啓発の内容も入れるなどして、内容の充実を図っていきます。</td></tr>
<tr><td>（２）</td><td colspan="2">司書教諭や図書担当教員が中心となり、個人面談や保護者会等の機会に読書の必要性を話題にして家庭での親子読書を呼びかけて、家庭との読書活動の協力体制づくりに引き続き努めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>現状</td><td>長期休業中の課題や家庭学習の内容に読書を取り入れて、家庭で読書をする機会を作るよう、働きかけています。</td></tr>
<tr><td>課題・改善点</td><td>今後も継続していきます。</td></tr>
</table>

Ⅵ　図書館における読書活動の推進

基本方針

1　ゆりかごからヤングアダルト（ＹＡ）(用語 30) まで

図書館は、０歳から 18 歳の子どもとその保護者も含めた利用者の多様な要求や希望にそった読書環境を整備します。

2　子どもの読書活動推進の拠点としての図書館

図書館は、読書活動推進の拠点として、保護者、学校、地域、行政機関と連携し、子どもたちにとってよりよい読書環境を整備します。

3　資料収集

「生きる力」を育む読書環境を整えるために、西東京市図書館資料収集基準 (用語 31) に基づき、児童書・ＹＡ資料の収集と充実を目指します。

「西東京市図書館資料収集基準　第２　資料別、対象別収集方針」より抜粋

「②児童図書　未来ある子どもたちに読書の喜び、物事を調べることの楽しさを知ってもらえるように、また、知識・感性・情緒の育成を促し、様々な興味に応えられる資料を収集する。

③ヤングアダルト資料　ヤングアダルト世代の対象を 13 歳～18 歳頃とし、青春期特有のテーマ（友情・恋愛・自立・職業・生き方など）を扱った、読み物・絵本・ノンフィクションなどを中心に様々な分野から収集する。その際ヤングアダルト世代の要求を考慮し、かつ、その資料の質にも留意した収集に努める。」

4　専門性を活かした支援

図書館職員は、研鑽を積むことによって得た専門性を活かして資料を有効に活用し、要望に応じて関係機関と連携を取りながら利用者（個人・団体）を支援します。

1　乳幼児へのサービス

（１） 絵本と子育て事業 (用語 32) の継続と内容の充実を図ります。

①	絵本と子育て事業は一定の成果を挙げていますが、今後も継続して乳児をもつ保護者に絵本を通じて心の触れ合いと、一緒に過ごす時間の楽しさや大切さを伝えていきます。	
	現状	10 年継続しているため、以前兄弟がもらった絵本を活用していたという話を現場で聞くことが多く、絵本の配布が喜ばれていることがわかります。
	課題・改善点	現状維持での継続的な実施が重要です。

②	絵本と子育て事業の会場で、市内図書館の所在地や開館時間・利用方法等を周知するため「図書館利用案内」を配布し、あわせて市内各図書館で実施している乳幼児向けのおはなし会の案内も配布します。	
	現状	会場で乳幼児向けのおはなし会の情報を求められることが多く、保護者の意識の高さを感じます。口頭での案内を徹底し、利用者の周知に努めています。
	課題・改善点	継続的な実施が重要です。
③	３・４か月児健診時の他にも、出産前の講座や３歳児健診など、絵本と子育て事業を拡大し実施できる機会を他課と協議しながら検討していきます。	
	現状	未実施。
	課題・改善点	３歳児健診については、今後検討を続けていきます。
④	ブックリスト「はじめまして～赤ちゃんにおくるえほん 30 冊～」（用語 33）掲載の資料を中心に、良質な赤ちゃん絵本の収集に努め、各館おはなしコーナーなどの乳幼児コーナーの充実を図ります。	
	現状	複冊購入し、美麗な状態での提供を心がけ、積極的に買い替えを行っています。
	課題・改善点	継続的な実施とともに、掲載資料については、新しく発行された良本があれば検討します。

（２）行事の充実を図ります。

①	乳児・幼児対象のおはなし会の充実を全館で図ります。	
	現状	平成 25 年度第３期おはなし会ボランティア養成講座（用語 34）を開催しました。また、ひばりが丘図書館のおはなし会の回数を月２回に増やすことによって、充実を図りました。
	課題・改善点	おはなし会ボランティアのフォローアップ研修によって、レベルアップを図ります。
②	乳幼児をもつ保護者に対する働きかけとして、絵本と子育て事業後のフォローアップ講座を企画します。	
	現状	要望に応じ、乳幼児向けの保護者の参加するサークルへのブックトークを実施しています。
	課題・改善点	研修などを行い、レベルアップを図ります。

（３）ブックリストを作成します。

①	図書館関係のボランティアの協力を得ながら、「はじめまして～赤ちゃんにおくるえほん 30 冊～」を平成 21 年度に改訂しました。定期的な改訂をすることによって、内容の充実を図ります。	
	現状	平成 23 年度に改訂版を発行しました。
	課題・改善点	今後も、質の向上を目指して見直し、改訂します。
②	幼児用ブックリスト「えほんだいすき　３さい～５さい」（用語 35）を平成 19 年度に作成しました。定期的な改訂を実施し、内容の充実を図ります。	
	現状	平成 20 年度に改訂版（カラー）を発行しました。
	課題・改善点	今後も、質の向上を目指して見直し、改訂します。

（４）関係機関との連携・協力を推進します。

①	保育所（園）・児童館等乳幼児の集まる施設への団体貸出を活発に行うとともに、搬送ルートを確立しました。今後は関係機関と連絡を密にして、効率の良い配送ができるよう努めます。	
	現状	児童館などの団体貸出が４パーセントほど増えています。また、団体貸出搬送業務は週１回実施しています。
	課題・改善点	公設民営化された施設との連携も密にとり、スムーズな配送を目指します。
②	おはなし会やブックトークなど、読書活動への職員の派遣を実施します。	
	現状	児童館および児童センターとの併設館では、定期的に実施しています。また、平成 24 年度には子ども家庭支援センターにて「子育てひろば　絵本講座」を実施しました。幼稚園、保育所（園）の保護者向けには、要請に応じて実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、担当職員の技量を高める必要があります。
③	図書館で除籍した資料を、希望する保育所（園）・児童館に配布し再利用を図ります。	
	現状	児童館との併設館および希望館には、実施しています。児童館には、年に１回除籍図書配布の案内を送付しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。

２　小学生へのサービス

（１）学校との連携・協力を推進します。

①	司書教諭・学校図書館専門員と連携し、求められた資料を必要な時に提供できる体制づくりに努めます。	
	現状	司書教諭・学校図書館専門員の要請に応じて資料を集め、提供しています。
	課題・改善点	複数の学校から同時に依頼があった場合に備えて、計画的な提供を行います。
②	学校図書館・学級文庫への団体貸出を継続して実施します。	
	現状	週１回の団体搬送を実施しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。
③	読書活動に関係する学校からの要請に応じて、児童の図書館利用の受け入れや、読書活動への職員の派遣を実施します。ブックトーク・絵本の読み聞かせなど内容の充実を図るとともに、図書館の利用指導、周知に努めます。	
	現状	図書館の時間（用語 36）、図書館見学を随時受け入れしています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。
④	ブックトークや特別展示等に使用したテーマ別リストをファイルにし、利用者に情報提供します。	
	現状	継続的な更新ができていません。
	課題・改善点	より活用してもらえるような方法を考えていきます。
⑤	保護者をはじめとした利用者の読書相談に応じます。	
	現状	随時実施しています。児童担当は、担当がわかるように表記した名札の着用を始めました。
	課題・改善点	ＰＲとともに、図書館職員の技量を高めます。
⑥	図書館で除籍した資料を希望する小・中学校に年１回配布して再利用を図ります。	
	現状	市立全小・中学校あてに案内を送付し、除籍図書配布を年１回実施しています。きれいな本を提供できるよう選別しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。

（２）行事の企画を充実します。

①	小学生が参加できる行事を検討し企画します。	
	現状	一日図書館員は全館で実施しています。蚊帳の中のおはなし会や、科学あそび、人形劇、紙芝居、豆本作りなど各館で企画するものもあります。
	課題・改善点	参加者の低年齢化が進んでいるので、小学生に向けた企画の曜日や時間、企画等の協議が必要です。
②	一日図書館員の参加希望が増加している中で、適正な参加人数・回数について検討していきます。また、図書館の仕事を体験することで、図書館に対する理解と関心を高めるように努めます。	
	現状	担当職員の人数により、定員を決定しています。
	課題・改善点	館全体の協力を仰ぎながら、充実を目指します。

（３）関係機関との連携・協力を推進します。

①	児童館、学童クラブ等への団体貸出を活発にするために、図書館搬送ルートを利用したサービスの周知に努めます。	
	現状	登録時に団体搬送の案内を実施しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。
②	児童館・学童クラブ等の職員と連携し、読書活動や図書資料の相談に応じ、情報提供、資料提供等の協力を行います。	
	現状	要請に応じて実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、担当職員の技量を高めます。

３ 中学・高校生へのサービス（ＹＡサービス）

（１）学校との連携・協力を推進します。

①	司書教諭・学校図書館専門員と連携し、求められた資料を必要な時に提供できる体制づくりに努めます。	
	現状	授業関連の資料の提供を実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、担当職員の技量を高めます。

②	学校図書館・学級文庫等への団体貸出を継続して実施します。	
	現状	今までレファレンス対応のみだった中学校にも学級文庫の団体貸出を実施しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。
③	平成 22 年に作成した職場体験受入マニュアルに沿って受入態勢を充実させ、図書館に対する理解と関心を高めるように内容の充実を図ります。	
	現状	職場体験受入マニュアルに基づき、できるかぎり要望に沿った受け入れをしています。
	課題・改善点	館全体の協力を仰ぎながら、充実を目指します。
④	ブックトークなど、読書活動への支援のため、職員の派遣を実施します。	
	現状	要請があれば随時派遣を実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、図書館職員の技量を高めます。

（２）情報紙の充実を図ります。

①	現在発行しているＹＡ情報紙「ＣＡＴＣＨ（キャッチ）」（用語 37）を平成 23 年度からＹＡ世代と共同編集します。	
	現状	平成 23 年度からＹＡ世代との共同編集を始めました。 ＣＡＴＣＨ紙面上で、共同編集者のおすすめ本を紹介することにより、同世代の利用の促進につなげています。
	課題・改善点	共同編集の継続を目指し、参加人数を増やすようＹＡ世代に対するＰＲを積極的に行います。
②	利用者同士のコミュニケーションをはかる「ＹＡ！ ＹＡ！（ヤイヤイ）ペーパー」（用語 38）の周知と利用の促進を図ります。	
	現状	投稿されたペーパー上での交流があります。また、そのペーパーをＣＡＴＣＨに掲載し、共同編集者がコメントを付けています。
	課題・改善点	今後も継続して実施し、ホームページでもＰＲします。

（３）居場所づくりをします。

①	ＹＡ世代の興味や要求に対応できる蔵書構成をめざし、ＹＡコーナーの資料を充実させます。	
	現状	生き生きとした蔵書構成を心がけ、利用の少なくなった資料の引き抜きや買い換え等を計画的に実施しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。

②	楽しく魅力あるＹＡコーナーとなるように掲示や展示を工夫します。	
	現状	館によっては、随時テーマ展示を実施し、ＹＡ世代の目を惹く書架づくりを心がけています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。

（４）学習室の整備を検討します。

	市全体の公共施設の適正配置・有効活用の検討をしていく中で、学習室の整備を検討します。	
	現状	保谷駅前図書館に学習室を設置し、ＹＡ世代の利用に供しています。
	課題・改善点	ＹＡ世代の利用におけるマナーの周知を徹底します。

（５）関係機関との連携・協力をします。

	児童館等職員と連携し、読書活動や図書資料の相談に応じ、情報提供、資料提供等を行います。	
	現状	要請に応じて実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、図書館職員の技量を高めます。

４ 読書環境の整備

（１）魅力ある書架づくりを目指します。

①	子どもたちが読書の楽しさを知る動機付けとなる資料の収集に努めます。各年代の子どもたちの要求や希望を満足させる蔵書を目指します。	
	現状	「西東京市図書館資料収集基準」に基づき、子どもの発達段階に応じた資料を収集し、豊かな書架づくりを目指しています。
	課題・改善点	今後も継続して実施します。
②	常に新鮮味のある見やすい書架づくりのため、古い資料の買い替えや新刊の購入・除籍等を定期的に実施します。	
	現状	定期的に新刊を購入し、随時買い替えを行っています。
	課題・改善点	書架を見直し、新鮮な書架を作るよう心がけていきます。
③	テーマ別配架や特別展示等、様々な工夫をすることで魅力ある書架を作ります。	

	現状	各図書館で展示を行い、本を子どもたちに手にとってもらえるような工夫をしています。
	課題・改善点	テーマが固定化しないよう、新しいテーマの探求を心がけていきます。

（２）人材を育成します。

①	児童サービス・ＹＡサービスに関して必要とされる専門的知識をもつ司書・職員の配置及び養成に努めます。	
	現状	平成 25 年度に新人職員が採用されました。担当職員の不在の館に関しては、他の館の担当職員が補助し、どの館でも同じサービスが受けられるように、努めています。
	課題・改善点	バックアップ館を決め、担当職員不在館でもよりよいサービスがうけられるように目指します。
②	担当職員は、児童サービス・ＹＡサービスに関する研修・研究会等に参加し、自己のレベルアップに努めます。	
	現状	担当職員はできるだけ、研修等に参加し、館内でも研修を行い、専門的知識が得られるよう努めています。
	課題・改善点	館内研修を定期的に行い、外部の研修にも積極的に参加します。
③	おはなし会ボランティア育成のため、養成講座、フォローアップ研修を行い、おはなし会の充実を図ります。	
	現状	１・２期生に対して、平成 23・24 年度にフォローアップ研修を実施しました。また、平成 25 年度に第３期おはなし会ボランティア養成講座を実施しました。
	課題・改善点	平成 26 年度以降もフォローアップ研修の実施を予定しています。おはなし会ボランティアのレベルアップに努めます。

（３）読書相談に対応し、情報を提供します。

①	子どもたちが自分自身で読みたい資料を探し、また、調べ学習ができるように本の紹介や読書相談を充実します。	
	現状	「ドキドキわくわくあたらしい本」（用語 39）を隔月発行し、新刊の情報を伝えるようにしています。毎年、「ドキドキわくわく１年生号（用語 40）」「夏休みすいせん図書」（用語 41）と「宿題のしらべ方」（用語 42）を発行し、平成 23 年度に「で・あ・い」（用語 43）と「道しるべ」（用語 44）を発行しました。
	課題・改善点	新刊の情報を収集し、良質な資料を紹介できるよう心がけます。

②	子どもの読書活動の推進のため、保護者からの読書相談に対応し、必要な読書情報を提供します。	
	現状	随時実施しています。
	課題・改善点	相談に的確に応えられるように知識の蓄積に努めます。
③	職員の名札などの工夫によって、子どもたちや保護者が声をかけやすい雰囲気を作ります。	
	現状	平成 25 年度より児童サービス担当職員は、担当が明確にわかるよう児童サービス担当表記の名札の着用を始めました。
	課題・改善点	継続実施し、ＰＲにも努めます。

（４）特別な支援を必要とする子どもへのサービスを実施します。

①	要望に応じて、情報や資料の提供を支援します。	
	現状	要請に応じて随時実施しています。
	課題・改善点	継続実施していきます。
②	現在所蔵している「布の絵本」「さわる絵本」（用語 45）などの資料を利用できるように整備します。	
	現状	所蔵はありますが、リスト等の整備を検討中です。
	課題・改善点	ハンディキャップサービス担当（用語 46）と協議し、リストの作成を目指します。
③	デイジー図書（用語 47）など新しい情報手段が出てくる中で、ハンディキャップサービス担当と連携し、実情に応じたサービスを提供します。	
	現状	点字絵本等の収集に努めています。
	課題・改善点	ハンディキャップサービス担当と協議し、今後のサービスについて検討します。
④	関係機関と連携し、団体貸出や職場体験の受け入れを実施します。	
	現状	要請に応じて実施しています。
	課題・改善点	継続実施していきます。

（５）日本語を母語としない子どもへのサービスを検討します。

	日本語を母語としない子どもたちの実情を調査し、有効に活用される外国語資料を収集し提供します。また、需要の増えてきた日本に関する外国語資料の収集も検討します。

	現状	1658 冊所蔵しています。（平成 25 年３月現在）
	課題・改善点	出版状況を把握し、購入に努めます。

５　地域との連携・協力

（１）資料の提供を積極的に推進します。

	団体貸出の実施を活発にし、必要に応じて資料を複本化します。	
	現状	内容、出版状況により、複本化を心がけています。
	課題・改善点	継続的に実施し、ＰＲに努めます。

（２）活動場所を提供します。

	子ども読書活動推進のため、図書館が依頼したボランティアが活動するのに必要な図書館施設を提供します。	
	現状	必要とされる図書館施設(会議室、読書会室、講座室)を提供し、ボランティア活動に協力しています。
	課題・改善点	継続実施していきます。

（３）人材を提供・育成を推進します。

①	活動のための相談やブックトークなどに、職員を派遣します。	
	現状	要請に応じて随時実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、児童サービス担当の技量を高める必要があります。
②	ボランティア育成のため、研修や研究会、公演・講演会を企画します。	
	現状	平成 23 年度に紙芝居講座を実施しました。また、平成 25 年度に第３期おはなし会ボランティア養成講座を実施しました。
	課題・改善点	平成 26 年度以降もフォローアップ研修の実施を予定しています。

（４）読書相談・読書情報の提供を実施します。

	子ども読書活動推進のため、図書館が依頼したボランティアからの読書相談に応じ、必要な情報を提供します。	
	現状	実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、担当職員の技量を高めます。

（５）ボランティアとの連携・協力を推進します。

①	おはなし会ボランティアなどのボランティアと連携・協力し、図書館内外の行事の充実を図ります。	
	現状	ボランティアと連携・協力し、行事の充実を目指し、おはなし会等での協力体制をとっています。
	課題・改善点	継続実施していきます。担当職員不在館での、ボランティアとの連携がスムーズにいくように調整します。
②	おはなし会ボランティアの連絡会を作り、交流を図ることを検討します。	
	現状	平成 25 年度に「西東京市図書館おはなし会ボランティア」として活動するにあたっての取り決めを作成し、おはなし会ボランティアのヒアリングを行いました。
	課題・改善点	平成 25 年度に第３期養成講座を実施し、おはなし会ボランティアを養成しました。フォローアップ研修等で交流を図り、取り決めが全員のものとなるよう徹底します。

(6)子どもの読書に関わる市民団体への出前講座を実施します。

	子どもの読書に関わる市民団体の要望に応えて、出前講座を実施します。	
	現状	要請に応じて随時実施しています。
	課題・改善点	ＰＲに努めるとともに、担当職員の技量を高めます。

(7)市民と関係機関のネットワークづくりの支援をします。

	子ども読書活動推進計画を推進するために、子どもの読書に関係する市民団体・行政機関のネットワークづくりを支援します。	
	現状	「全国読書グループ調査」報告のため、市内関係グループの調査をし、現状を把握しました。
	課題・改善点	要望があれば随時対応していきます。

資　　料

１　アンケート

２　用語の解説

３　第２期西東京市子ども読書活動推進計画実施計画

（１）　家庭・地域における読書活動推進計画実施計画

（２）　保育所（園）における読書活動推進計画実施計

（３）　児童館・学童クラブにおける読書活動推進計画実施計画

（４）　学校における読書活動推進計画実施計画

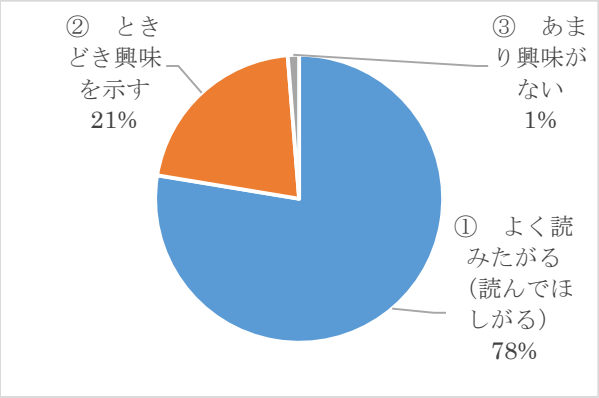
（５）　図書館における読書活動推進計画実施計画

資料１　アンケート

（１） 乳幼児の読書についてのアンケート調査

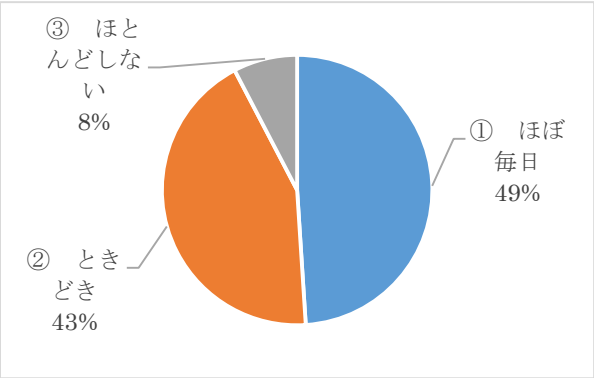
実施期間　平成 25 年 12 月 10 日～12 月 25 日および平成 26 年 1 月 19 日
実施場所　市内子ども家庭支援センター（２箇所）・文庫（３箇所）・児童館（６箇所）・地域子育て支援センター併設の保育園（５箇所）・講演会会場　全 17 箇所
対象　乳幼児の保護者
回収数　398 件

質問１　お子さんは、本が好きですか



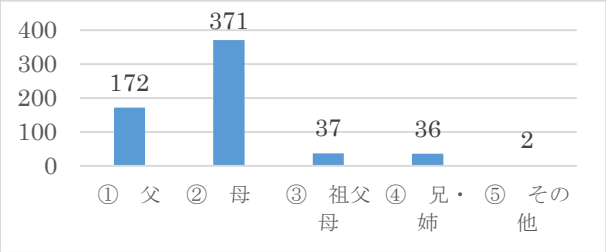
「よく読みたがる」が 78%、「ときどき興味を示す」が 21%。多くの家庭で、子どもが本に興味を持っていると、保護者が考えていることがわかる。

質問２　ご家庭で、お子さんに絵本などを読んで聞かせていますか



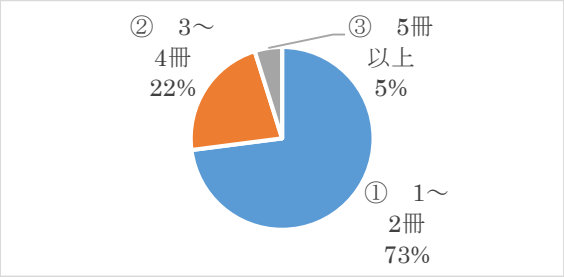
家庭で乳幼児に絵本の読み聞かせをしている人は、「ほぼ毎日」が 49%、「ときどき」が 43%で、約 90%の家庭で読み聞かせをしている。「読み聞かせ」という言葉が浸透し、家庭で実践している様子がうかがわれる。

質問３　ご家庭で、主に読みきかせをするのはだれですか（複数回答可）



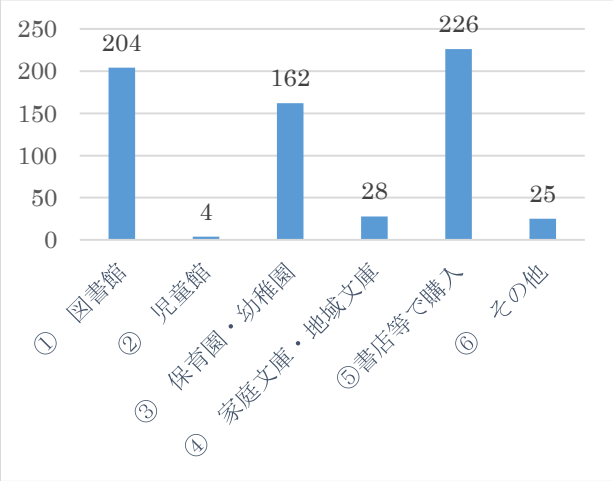
両親が主で、特に母親が父親の倍以上という数字になっている。そのあとに、祖父母、兄・姉と続く。

質問４　１回に平均何冊くらい読みますか



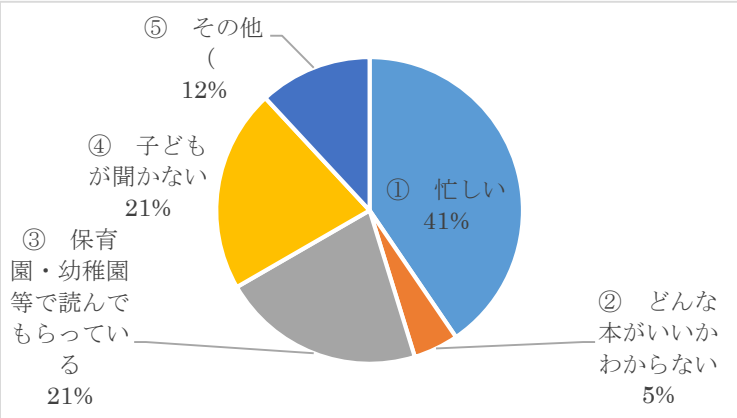
１回に読む冊数は、１～２冊が 73%、３～４冊が 22%となっている。乳幼児の関心をひく時間を考えると適当な数字と思われる。

質問５　読み聞かせのための本は、主にどこで入手しますか（２つまで回答可）



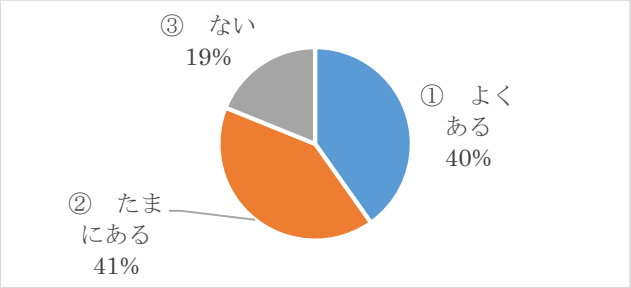
本の入手先は図書館と書店が多く、次に保育園･幼稚園となっている。図書館は読書環境として、かなり浸透していることがわかる。

質問６　質問２で「ほとんどしない」と答えた方の理由（複数回答可）



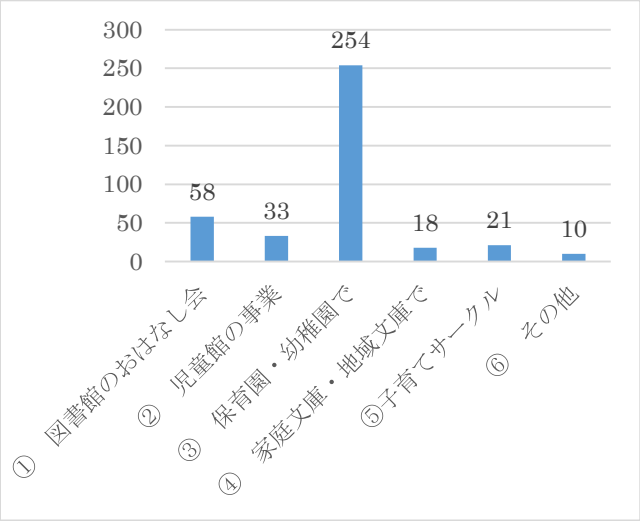
１位が「忙しい」で 41%、２位は「保育園・幼稚園等で読んでもらっている」と「子どもが聞かない」が同率で 21%となっている。保護者の多忙がうかがわれるが、子どもが聞かない、どんな本がいいかわからないという保護者に対しては、図書館からの働きかけも不可欠と思われる。

質問７　お子さんには、家庭以外で読み聞かせを体験する機会がありますか



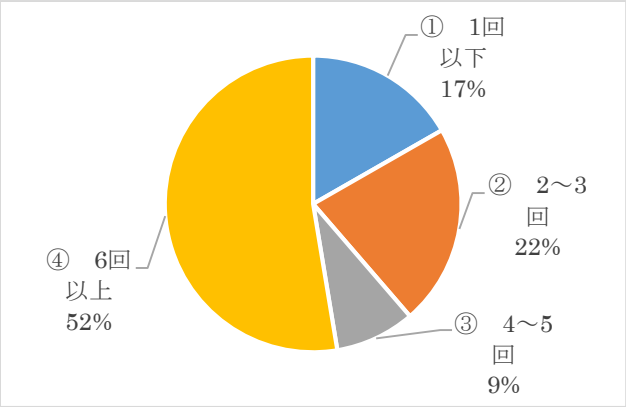
家庭以外で読み聞かせの体験をする機会が「よくある」と答えたのは 40%、「たまにある」が 41%となっており、約 80%の乳幼児が家庭以外で読み聞かせを体験する機会があると答えている。

質問８　質問７で「よくある・たまにある」と答えた方へ。
　それは、どういう集まりですか（複数回答可）



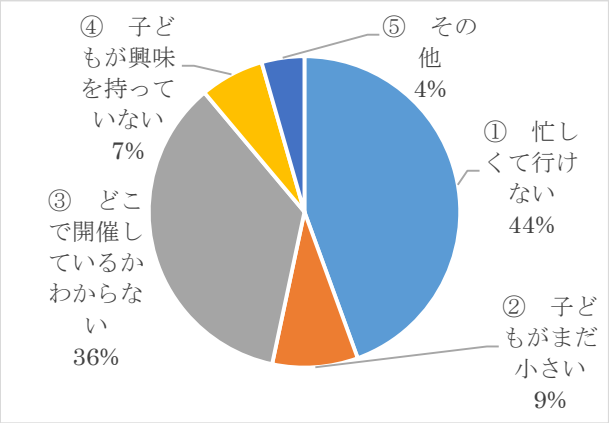
保育園・幼稚園が一番多く、ついで図書館のおはなし会、児童館の事業となっている。アンケートの回答者の多くが保育園通園者だったため、このような結果となったと考えられる。

質問９　質問７で「よくある・たまにある」と答えた方へ。
　　お子さんは、１か月に何回くらい体験する機会がありますか



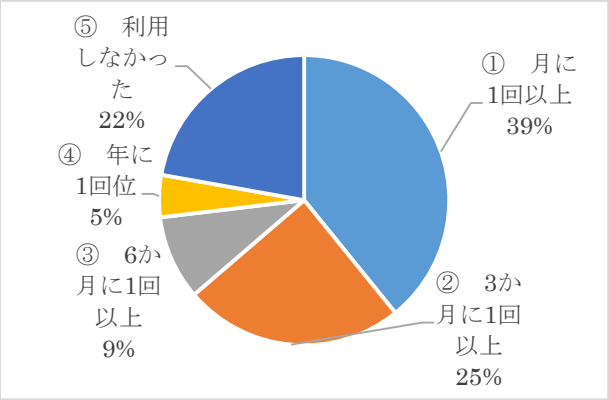
ほぼ半数の乳幼児が月に６回以上体験しており、「月に２～３回」の回答が 22%である。家庭以外での読み聞かせも浸透していると考えられる。

質問 10　質問 7 で「ない」と答えた方の理由



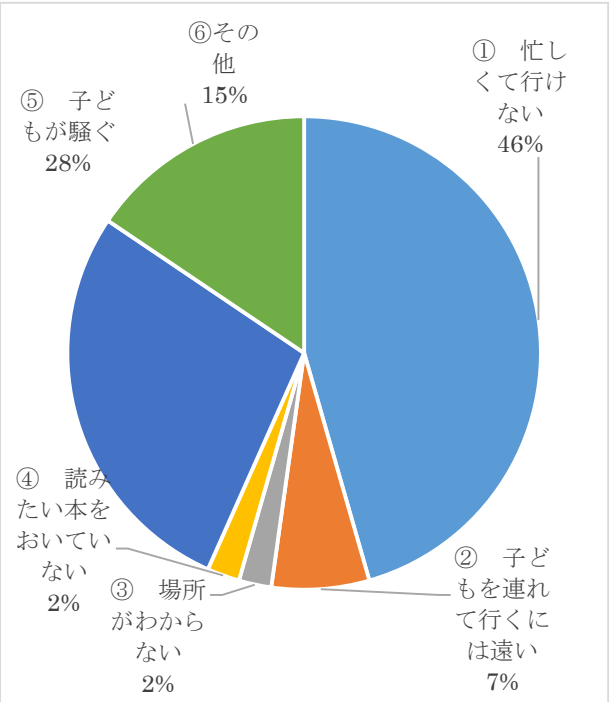
１位は「忙しくていけない」で 44%、２位は「開催場所がわからない」で 36%となっている。図書館行事のＰＲが今後の課題となる。

質問 11　この１年間に図書館を利用しましたか



39%の人が月に１回以上利用し、利用しなかったと回答した人は 22%となっている。図書館を利用したことがない乳幼児と保護者に対して、絵本と子育て会場での案内やＨＰでのＰＲが不可欠である。

質問 12　質問 11 で「利用しなかった」方の理由



「忙しくていけない」が 46%とほぼ半数を占めている。保護者の多忙がうかがわれるが、「子どもが騒ぐ」が 28%となっていて、乳幼児連れの保護者が安心して利用できる環境づくりも課題となる。

質問 13　お子さんが好きな絵本をおしえてください（いくつでも）上位回答

ももんちゃんシリーズ
だるまさんシリーズ
バムとケロシリーズ
100 かいだてのいえ
ノンタンシリーズ

質問 14　よく読み聞かせをする絵本をおしえてください（いくつでも）上位回答

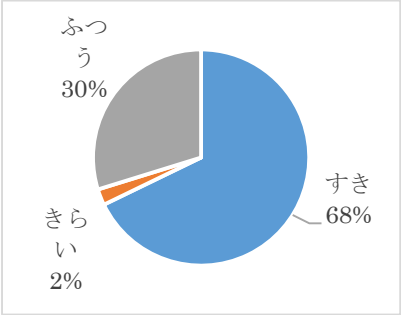
ももんちゃんシリーズ
ぐりとぐら
がまんのケーキ
きんぎょがにげた

（２）子ども読書アンケート調査 小学校３年生・５年生

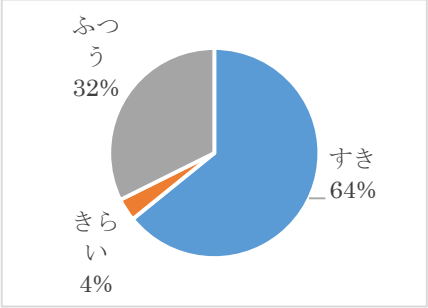
実施期間　平成 25 年７月１日～平成 25 年７月 23 日
実施場所　市内小学校
対　　象　市内全市立小学校　３年生・５年生（各１クラス）
回 収 数　３年　581 件　５年　576 件

質問１　本を読むことはすきですか

３年生

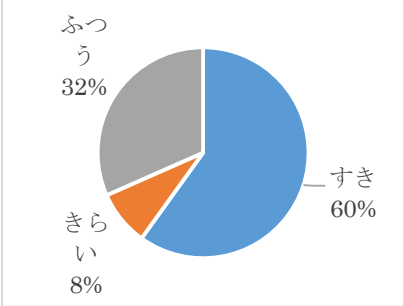


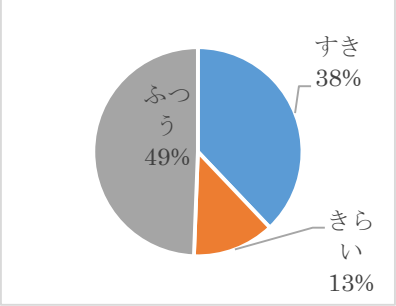
５年生



本を読むのが「すき」という回答が３年生では 68%、「ふつう」が 30%、５年生では本を読むのが「すき」が 64%、「ふつう」が 32%。両学年とも 90%以上の児童が本を読むことが好きと回答している。

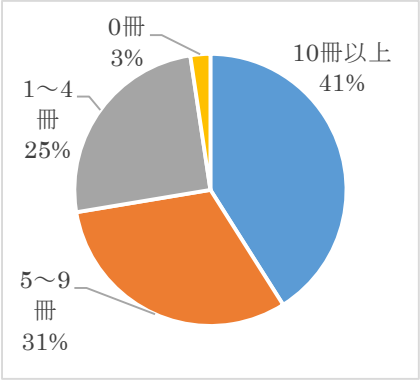
質問２　本を読んでもらうことはすきですか

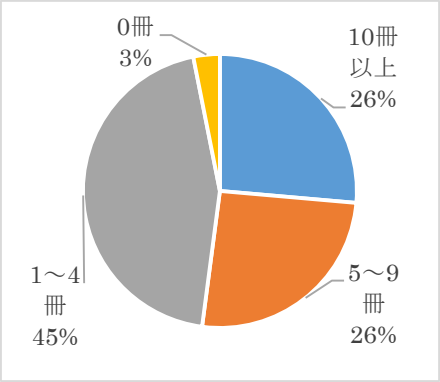




３年生で読んでもらうことが「すき」と答えた児童は 60%。「きらい」と答えた児童は８％、５年生になると「すき」が 38%に減り、「きらい」が 13%に増加する。学年が上がるにつれ、読んでもらうことより、自分で読むことを好む児童が増加する。

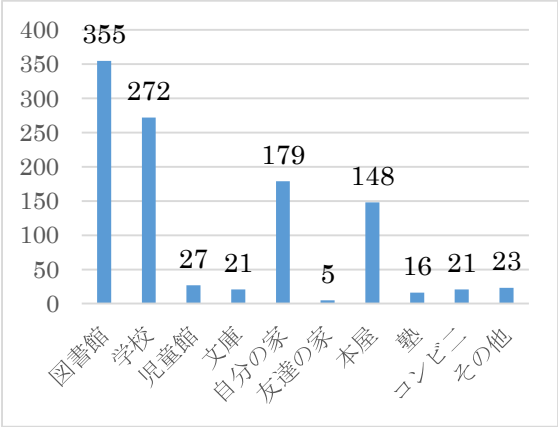
質問３　１ヶ月に何冊読みますか

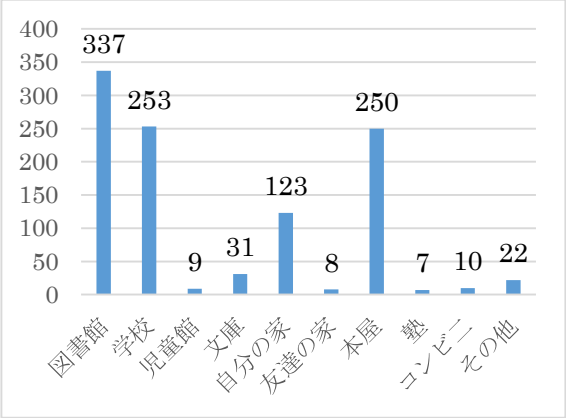




１ヶ月に読む冊数は、３年生は「10 冊以上」が 41%、「５～９冊」が 31%、合計 72%である。５年生は「10 冊以上」と「５～９冊」がそれぞれ 26%となっており、合計すると 52%で、学年が上がると読書量が減少すると考えられる。

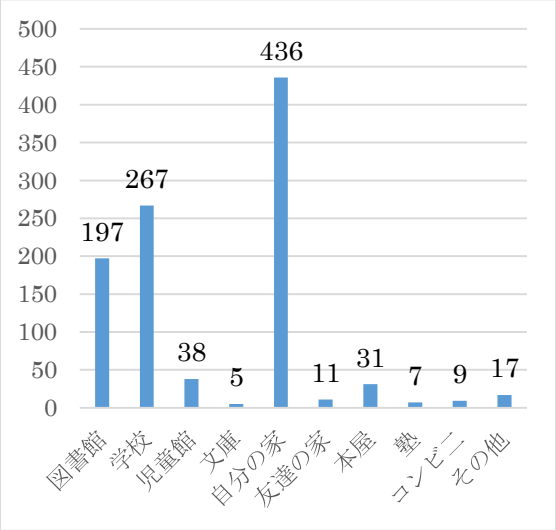
質問４　本をどこでさがしますか（２つまで）

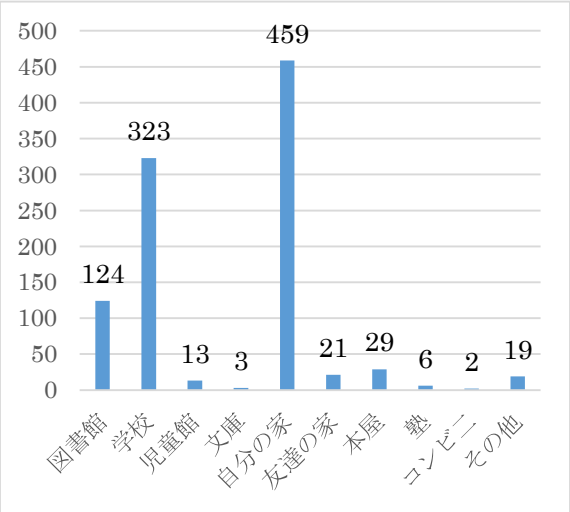




本を探す環境では、３年生の１位が「図書館」、次いで「学校」となっている。５年生になると、１位の「図書館」は変わらず、次いで「学校」と「本屋」がほぼ同じである。学年が上がるにつれ、「本屋」が増加していることがうかがわれる。

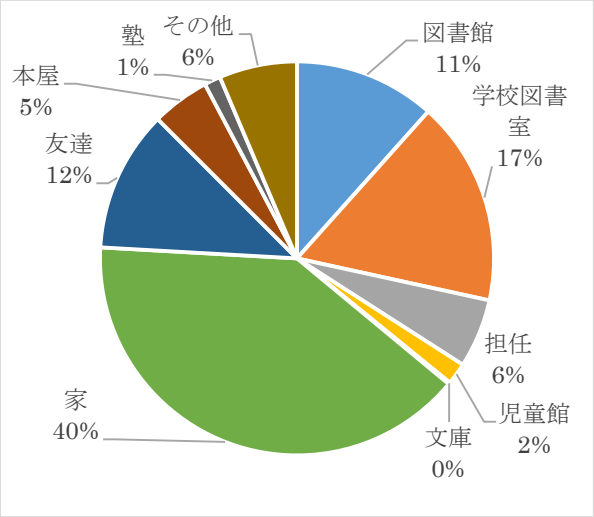
質問５　本をどこで読みますか（２つまで）

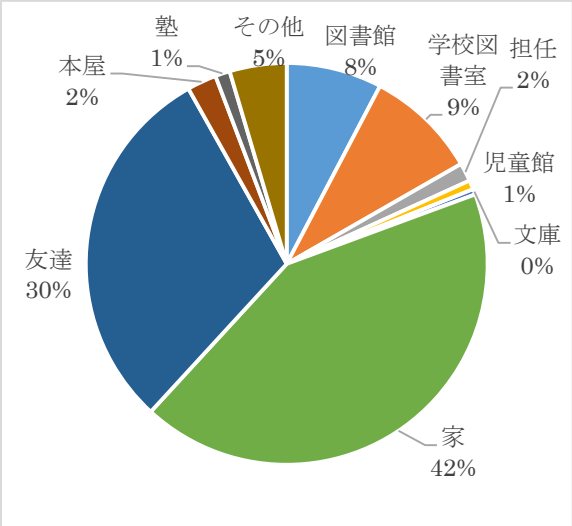




本を読む環境としては、「自分の家」で読む児童が一番多く、次いで「学校」「図書館」と続く。学校では「読書の時間」が設定されていると考えられる。「図書館」は読書する場所の選択肢としては低い。

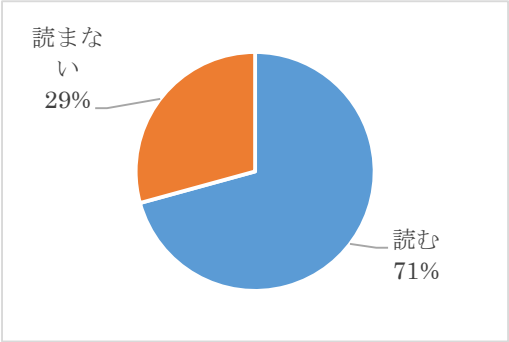
質問６　本のことについて一番話しやすいのはだれですか

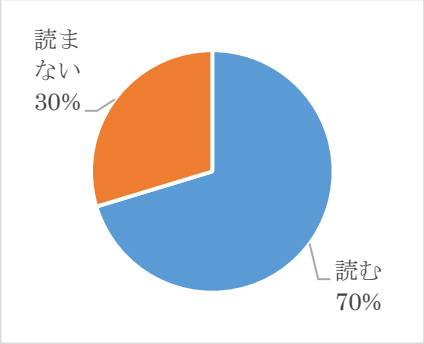




本のことで一番話しやすい人は、「家の人」が３・５年生とも約 40%で最も多い。次いで３年生は「学校図書室」17%、「友達」12%となっている。５年生では、「友達」が 30%に増え、学年が上がるにつれ「友達」の割合が増えていると言えよう。「図書館」は３年生が 11%、５年生が８％にすぎない。

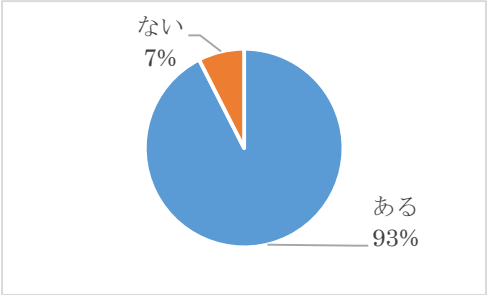
質問７　おうちの人は本を読みますか

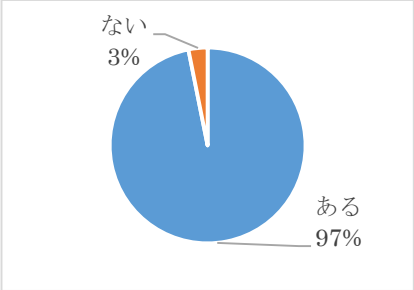




３・５年生とも、70%以上が家族は「本を読む」と回答している。

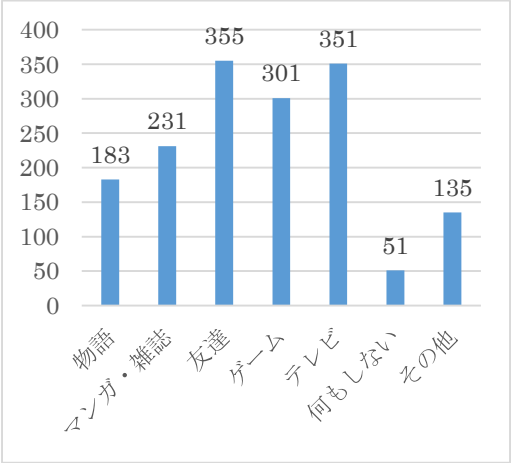
質問８　小さい時、絵本を読んでもらったことがありますか

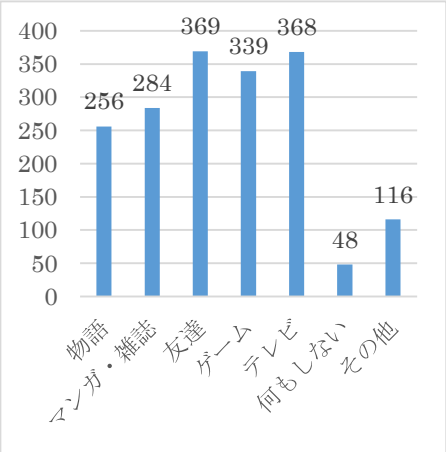




３・５年生とも 90%以上の児童が小さい時に絵本を読んでもらったことが「ある」と回答している。読み聞かせの定着がうかがわれる。

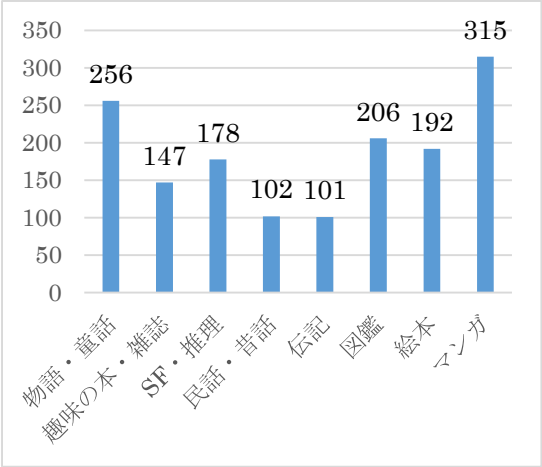
質問９　じゆうな時間は何をしていますか（いくつでも）

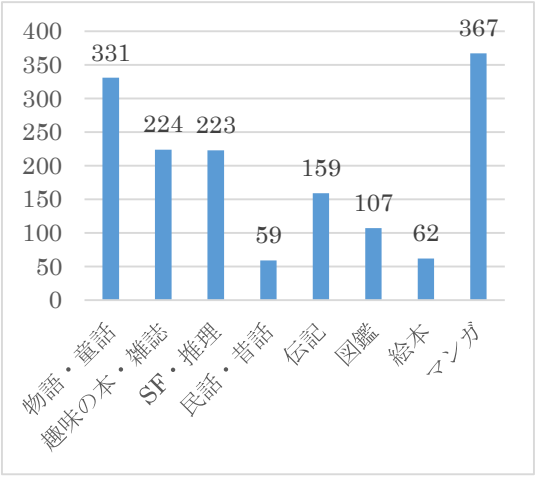




３年生は「友達」「テレビ」が同程度で、「ゲーム」「マンガ・雑誌」の順で続き、５年生も同様である。両学年ともあまり変わらない余暇を過ごしていると考えられる。

質問 10　どんな本が好きですか(いくつでも)





好きなジャンルの上位は３・５年生とも「マンガ」が１位、３年生は「物語・童話」「図鑑」が次に続き、他のジャンルも満遍なく読まれている。成長と発達に即した読書が行われていると考えられる。また、５年生も、読書に自我が反映しているのか、「物語」のあとに、「趣味の本・雑誌」と続く。

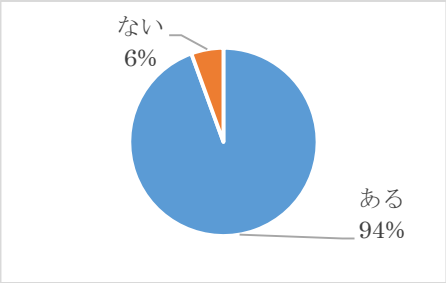
質問 11　おもしろかった本の題名を書いてください（３さつまで）

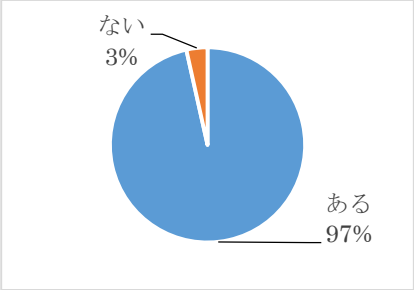
（上位５冊）
・かいけつゾロリ
・若おかみは小学生!
・黒魔女さんが通る!!
・マジック・ツリーハウス
・Maple street（ルルとララ）

（上位５冊）
・若おかみは小学生!
・黒魔女さんが通る!!
・グレッグのダメ日記
・泣いちゃいそうだよ
・ハリー・ポッター

クラスに置いてある学級文庫の作品に人気が集中することもあるが、どこの小学校でもこのタイトルが上位である。図書館のベストリーダーの本とも重なる。

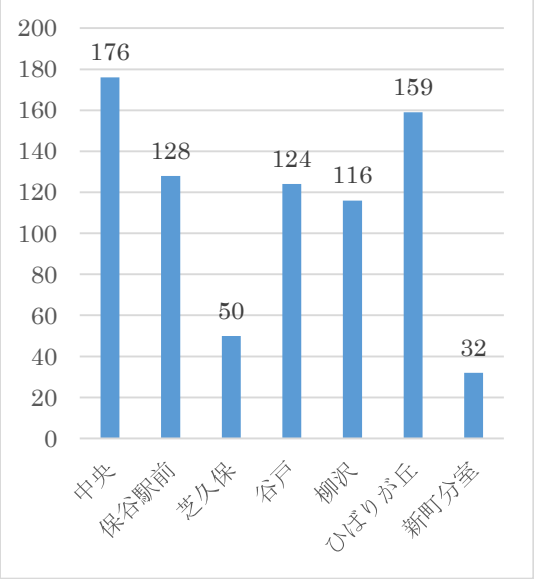
質問 12　図書館に行ったことがありますか（いくつでも）

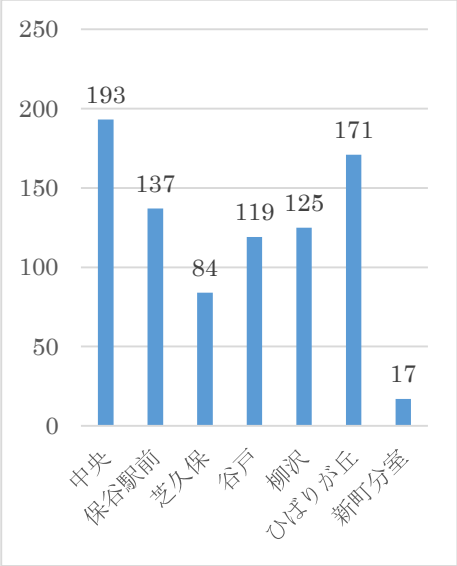




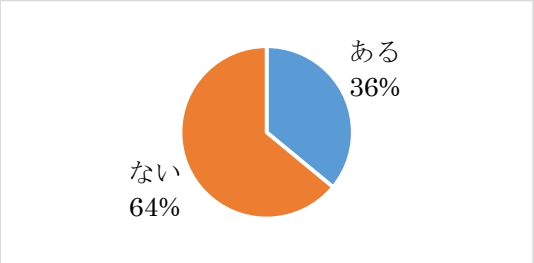
３年生の 94%、５年生の 97%が「図書館に行ったことがある」と回答している。習慣的に図書館に行くことができるように働きかけていくことも必要と考えられる。

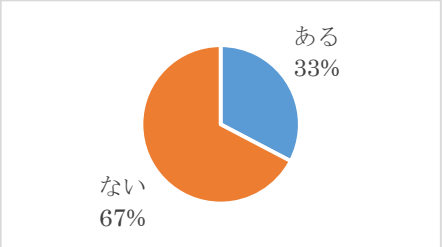
利用館（いくつでも）





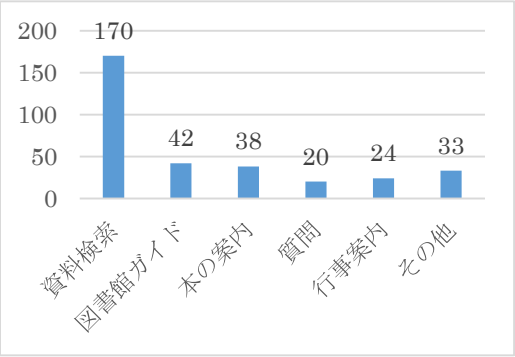
質問 13　図書館のＨＰ（ホームページ）を見たことがありますか？

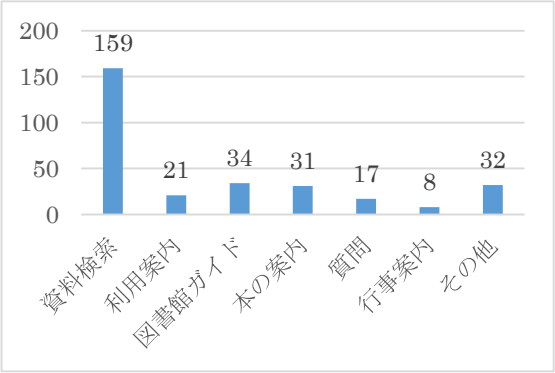




３年生の 36%、５年生の 33%の児童が「見たことがある」と回答している。平成 25 年度に図書館のＨＰのリニューアルを実施したので利用の促進のために、ＨＰの更新が必要である。また、ＨＰの利用に関しては、各家庭の事情も影響してくると考えられる。

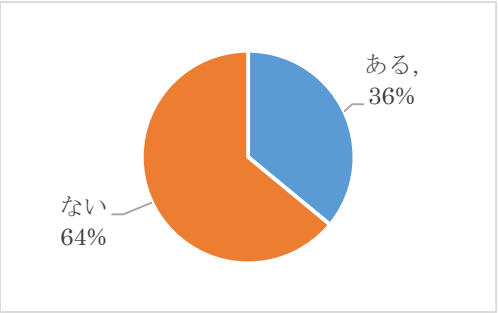
ＨＰ閲覧内容（いくつでも）

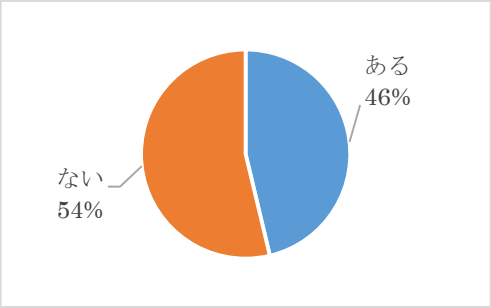




３・５年生とも「資料検索」がトップとなっている。検索の方法や、図書館利用の方法などに工夫を凝らし、児童たちが興味を引くようなＨＰを更新していく必要があると考えられる。

ＨＰ予約の有無



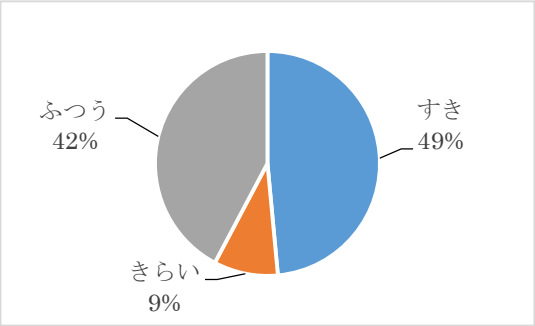


３年生の 36%、５年生の 46%の児童が図書館ＨＰで予約したことが「ある」と回答している。学年が上がるにつれ資料検索から予約をしている児童が増えていることがわかる。

（３）子ども読書アンケート調査　中学生

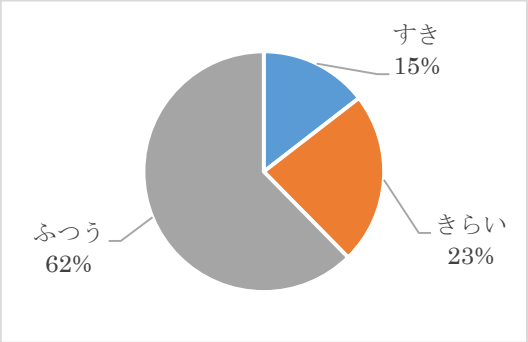
実施期間　平成 25 年 7 月 1 日～平成 25 年 7 月 23 日
実施場所　市内中学校
対　　象　市内全市立中学校　２年生（各１クラス）
回 収 数　304 件

質問１　本を読むことは好きですか



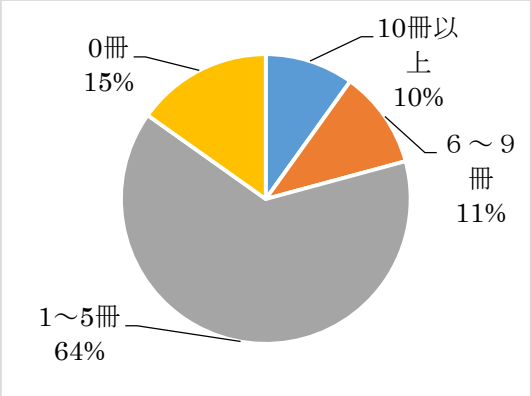
本を読むことが「すき」と回答した生徒が 49%、で約半数の生徒が本を読むことが「すき」と回答している。

質問２　本を読んでもらうことは好きですか



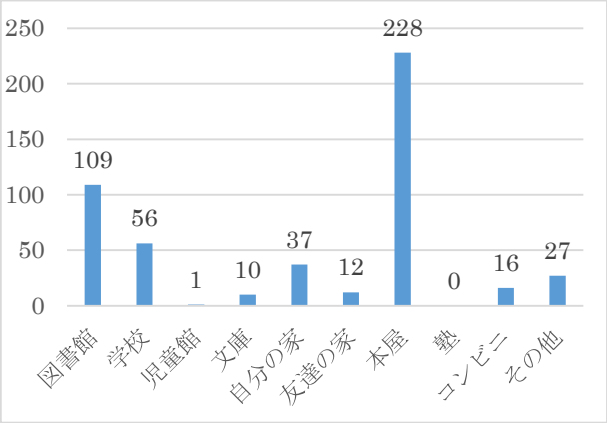
読んでもらうことが「ふつう」と答えた生徒が 62%、「すき」が 15%、「きらい」が 23%となっており、小学生と比較すると、自分で読むことを好む傾向がうかがわれる。

質問３　１ヶ月に何冊読みますか



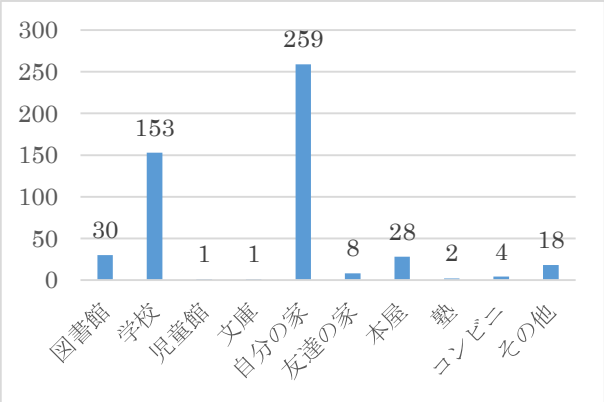
１ヶ月に読む冊数は、「１～５冊」が 64%、「６～９冊」が 11%、「10 冊以上」が 10%となっている。「０冊」が 15%で、小学生より増加している。

質問４　本をどこで探しますか（２つまで）



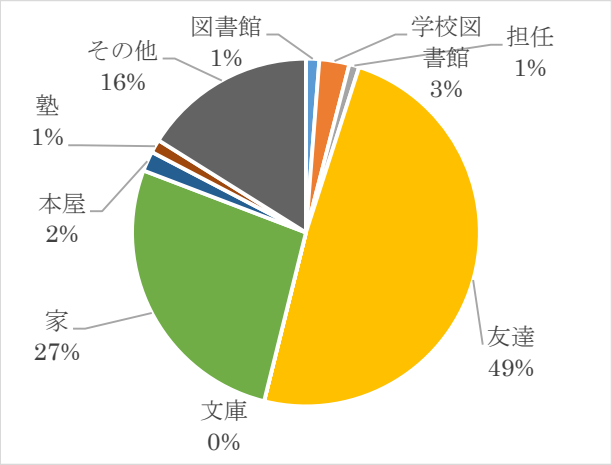
本を探す環境でもっとも利用されているのは「本屋」、次いで「図書館」「学校」と続く。小学生と比較すると、「本屋」が圧倒的に多い。

質問５　本をどこで読みますか（２つまで）



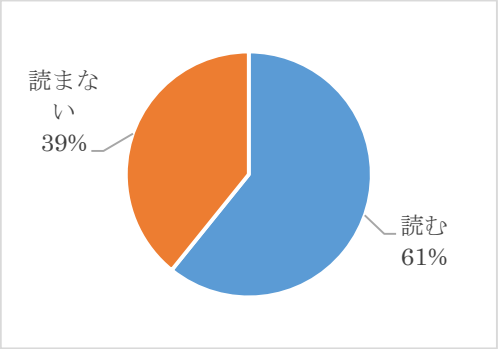
本を読む環境は、「自分の家」が多く、次いで「学校」「図書館」「本屋」となっている。

質問６　本について一番話しやすいのはだれですか



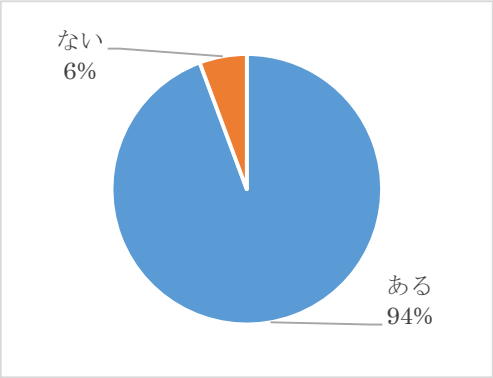
本のことで一番話しやすい人は、「友達」が 49%、次いで「家の人」が 27%、図書館は１％となっている。

質問７　家の人は本を読みますか



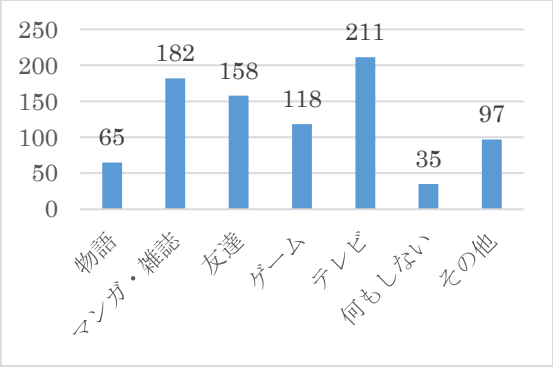
61％の生徒が自分の家族が読書に関心を持っていると答えている。

質問８　小さい時絵本を読んでもらったことがありますか



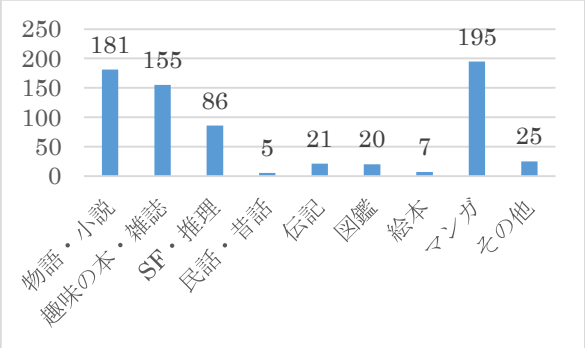
小さい時に絵本を読んでもらったことが「ある」と回答した生徒が 94%である。読み聞かせは定着していると言えよう。

質問９　自由な時間は何をしていますか（いくつでも）



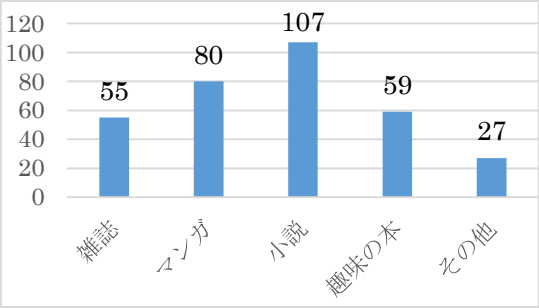
「テレビ」が１位、次いで「マンガ・雑誌」、「友達」、「ゲーム」の順となっている。

質問 10　好きなジャンルは何ですか（いくつでも）



⑨の結果に準じて、好きなジャンルの上位は「マンガ」が１位、次いで「物語・小説」「趣味の本・雑誌」と続く。

質問 11　自分で、主にどんな本を買いますか

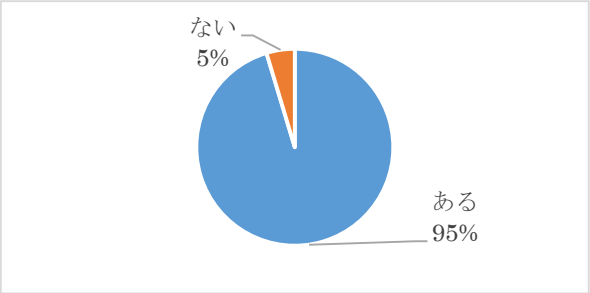


自分で購入する本は、⑩と逆転し、１位が「小説」、次いで「マンガ」「雑誌」「趣味の本」と続く。

質問 12　好きな著者をあげてください（３人まで）
（上位５人）

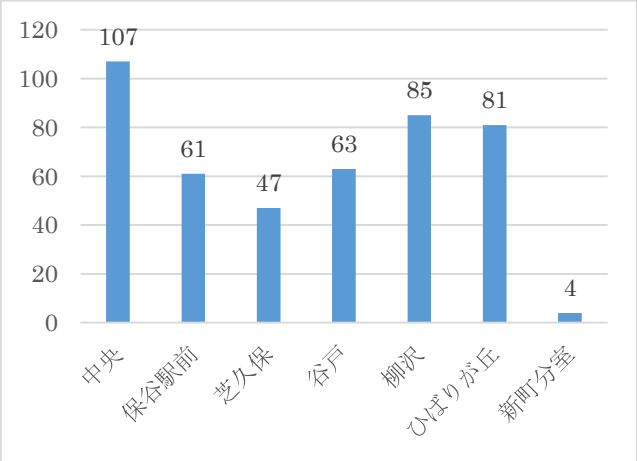
- 有川浩
- 重松清
- 東川篤哉
- 東野圭吾
- あさのあつこ

質問 13　図書館に行ったことがありますか

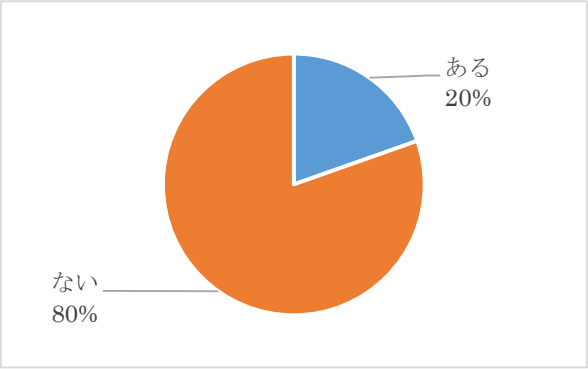


生徒の 95%が図書館に行ったことが「ある」と回答している。

利用館（いくつでも）

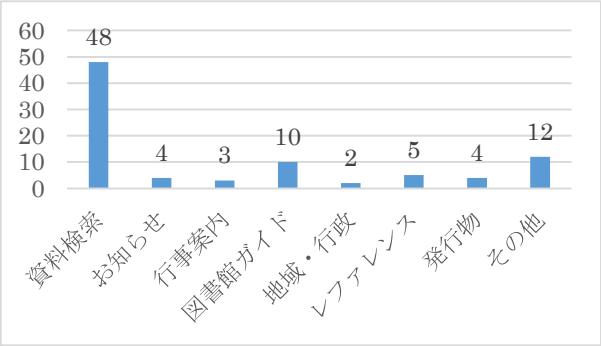


質問 14　図書館のＨＰ（ホームページ）を見たことがありますか？



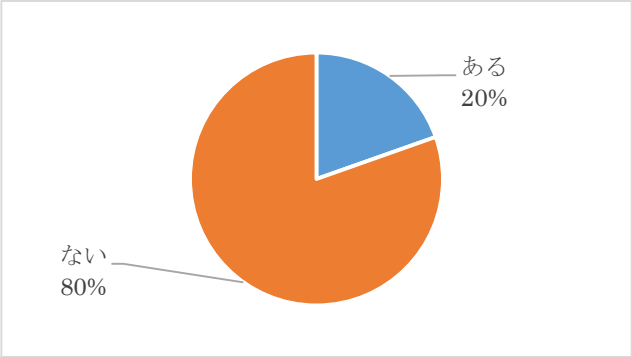
ＨＰを見たことが「ある」と回答した生徒は 20%、残りの 80%が「ない」と回答している。魅力的なＨＰを展開し、ＹＡ世代の興味を引くよう継続していくことが必要である。

ＨＰ閲覧内容（いくつでも）



「資料検索」がトップである。わかりやすい検索や興味を引くＨＰづくりが課題と考えられる。平成 25 年度にＨＰのリニューアルを実施したので、情報の更新に力を入れていくことも必要であろう。

ＨＰ予約の有無



ＨＰの閲覧と同率となった。資料検索の方法のＰＲとともに、資料の充実も課題と考えられる。

資料２　用語の解説

１　西東京市教育計画（教育プラン 21）（ｐ３）

西東京市の教育行政の最上位計画であり、学校教育の分野と生涯学習の分野における、基本的な施策を体系的にまとめ、教育全体のレベルアップや活力ある西東京市の教育を築くことを目的として策定された計画。計画の期間は平成 16 年度から５年間。

２　西東京市生涯学習推進計画（ｐ３）

市総合計画に位置付けられた「生涯学習社会の形成」に向けての展望（ビジョン）を示し、そのための具体的施策を総合的に体系化し、行政が一体になって事業を推進するための指針とする計画。計画の期間は、平成 21 年度から５年間。

３　西東京市子育て支援計画（西東京市子育ち・子育てワイワイプラン）（ｐ３）

西東京市在住の０～18 歳の子ども及び子どもに関わる市民を対象とし、「子どもの権利の実現」「すべての子どもと親への支援」「男女共同の子育て」「循環型の子育て」の４つを基本理念として策定された計画。計画の期間は、平成 16 年度から 10 年間。

４　素ばなし（ｐ４）

子どもたちに、昔話や童話などを語りかけること。人形や絵という手がかり無しに子どもたちは自由に想像しながら、物語を楽しむ。

５　調べ学習（ｐ４）

各教科、総合的な学習の時間の中で、子どもたちが主体的に課題解決を図ろうとする学習。例えば、「自分で課題を見つけ→解決法を考え→資料を選び→まとめ方を工夫する」という学習過程で行う。

６　団体貸出（ｐ４）

図書館が市内の学校や公共施設・サークル・事務所などの団体・グループに資料を多く、長い期間、特別貸出すること。

７　学校図書館（ｐ４）

昭和 28 年（1953 年）に制定された学校図書館法（最新改正平成 15 年）に基づいて設置された、小・中・高等学校（盲・聾・養護学校を含む）において、図書・視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、保存し、児童生徒および教員の利用を促し、教育活動に寄与し、児童生徒の健全な教養の育成を目的として設けられた学校の設備。小・中学校では、「図書室」と呼ばれている。

８　司書教諭（ｐ４）

昭和 28 年（1953 年）に制定された学校図書館法の「学校には学校図書館の専門的職務を掌

らせるため司書教諭を置かねばならない」（第５条１項）という規定に基づいて設けられた役職。平成９年（1997 年）の改正により、平成 15 年（2003 年）より全国の 12 学級以上の小・中・高等学校に司書教諭が配置されることとなった。学校図書館運営のコーディネーターとして、読書指導推進と情報教育推進の役割を担う。

９　学校図書館専門員（ｐ４）

西東京市が独自に採用して、学校図書館に配置した司書・司書教諭の資格をもつ嘱託の職員のこと。司書教諭とともに、学校図書館の整備・利用指導等の運営に携わる。平成５年（1993 年）旧保谷市から始まり、現在、全市の２校に１名配置されている。

10　子ども文庫（ｐ５）

児童書に興味をもち、子どもの読書活動の整備を願う有志者が、子どもと本を結びつけるために、本を用意して、貸し出しや行事などの活動を行う。個人が自宅を開放して行う家庭文庫と地域の集会所などを利用して行う地域文庫がある。

11　学校での読み聞かせグループ（ｐ５）

主に小学校の教室で、朝自習時、放課後等に絵本の読み聞かせ等を行う市民ボランティアグループ。

12　おはなし会（ｐ６）

子ども向けに実施する行事のひとつ。子どもたちに絵本の読み聞かせ・素ばなし・手遊び・わらべうた・簡単な工作等を行う。西東京市図書館では、館によって実施日時や回数・内容が異なる。

13　おはなし会ボランティア（ｐ７）

西東京市図書館行事である、おはなし会に参加するボランティア。おはなし会ボランティア養成講座（用語 35）を受講した個人と、地域で活動している団体がある。

14　地域子育て支援センター（ｐ８）

地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、子育て家庭の支援活動の企画、調整、実施を担当する職員を配置し、子育て家庭等に対する育児不安等についての指導、子育てサークル等への支援などを通して、地域の子育て家庭に対する育児支援を行なうことを目的とする施設。基幹型保育園に併設。

15　学童クラブ（ｐ10）

小学校等に就学しているおおむね 10 歳未満の児童が、保護者の就労や疾病等により昼間家庭にいない場合、保護者に代わって学童クラブにおいて生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行うことで、心身の健全な育成を図ることを目的としている。

16　年間指導計画（ｐ12）

読書活動の推進と学校図書館の計画的利用のために、各学校ごとに考えられた年間の読書指導の計画。

17　ＰＤＣＡサイクル（ｐ12）

企業が行う一連の活動をそれぞれＰｌａｎ（計画）Ｄｏ（実行）Ｃｈｅｃｋ（評価）Ａｃｔ（改善）（ＰＤＣＡ）という観点から管理するフレームワーク。

18　教科書参考資料リスト（ｐ13）

各教科で活用できる図書資料をまとめたもの。

19　蔵書管理システム（ｐ13）

ＴＲＣＭＡＲＣという書誌情報を使用するシステム「ＬＢ＠ｓｃｈｏｏｌ」（用語 20）を導入し、市内全校の図書室の蔵書を入力・管理している。

このシステムは、教育情報センターと市内全校がネットワークで結ばれ、自校のみならず市内全校の図書資料を検索し、学校間貸借もできる。蔵書はデーターベース化され、バーコードにより登録しており、貸し出し・返却は簡便。書誌の新規登録、除籍、蔵書点検、相互貸借、各種統計資料の作成、発注もこのシステムで行われている。

20　ＬＢ＠ｓｃｈｏｏｌ（ｐ13）

地域内の学校図書館をネットワークで接続し、図書情報の集中管理を行うことで、学術情報センターとしての機能充実を図る学校図書館システム。

21　読書交流会（合同書評会）（ｐ15）

市内中学校間の交流会で年に一度、夏休みに行われている。（西東京市中学校教育研究会・特別活動部の一環として実施）学校図書館専門員が課題図書候補をノンフィクション・フィクションから２冊ずつあげ、教員が１冊ずつ選び課題図書としている。生徒は課題図書を事前に読んで、各分科会で発表・意見交換などを行っている。より深く作品を味わい、考え、本の魅力を語り合うなどの交流の場となっている。

22　レファレンス（ｐ15）

参照、参考、情報検索のことを言う。レファレンス・ブックとは、辞書、事典等の参考図書のこと。レファレンス・サービスとは、図書館で利用者の調査・研究の援助をすること。

23　総合的な学習の時間（ｐ16）

教科の枠や領域を越え、横断的・総合的に学習活動を行う時間。平成 10 年（1998 年）に告示された新指導要領に取り入れられた。小学校から高等学校の教育課程には平成 12 年（2000 年）から順次設けられ、平成 14 年（2002 年）からは、完全実施された。

24　特別活動（ｐ16）

教科・道徳・総合的な学習の時間（用語24）以外で、集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方、生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う活動。学級活動、児童会生徒会活動、学校行事。

25　一日図書館員（ｐ17）

ふだん利用者側からは分からない図書館の仕事を体験することで、図書館をより身近に感じ、図書館利用の推進を図ることを目的として実施する図書館行事のひとつ。

毎年、夏休みに小学校４年生から中学校３年生までの子どもたちを対象にカウンターでの貸し出し・返却業務をはじめ、書架整理、本のカバーかけなどを行う。

26　西東京市小学校教育研究会図書館部（ｐ17）

西東京市小学校教育の充実・発展を目指し、西東京市に在職する教職員をもって構成される研究会。会員の相互啓発に努め、資質や能力の向上を図ることを目的としている。

図書館部は、19 ある部会の一つで、子どもの読書意欲を高めたり、読書活動の幅を広げたりすることを目的として研修を行っている。

27　アニマシオン（ｐ17）

魂を活性化し元気にするという意味。「読書へのアニマシオン」として読書が好きになるよう、ゲームや遊びをとおして読書に親しみ、楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を伸ばす国際的な読書指導のメソッド。

28　ブックトーク（ｐ17）

資料を紹介するひとつの方法。あるテーマを設定して、そのテーマに沿った資料を収集し、資料のあらすじ紹介をしたり、一節を朗読するなどによって、内容紹介をしていく方法。

29　「読書会」や「読書座談会」（ｐ19）

図書委員会活動の一環で、校内に呼びかけ、読書の啓蒙等を行うための会。参加者が同じ本を読んで感想を話し合ったり、各々のおもしろかった本の紹介をするなど、読書や本について理解を深める機会になっている。

30　ヤングアダルト（ＹＡ）（ｐ22）

「自分を子どもだと思っていないが、社会はおとなとは認めていない（『ヤングアダルト・サービス指針』アメリカ図書館協会刊より）」子どもと大人の狭間の世代を対象としたサービス。西東京市図書館では、児童サービスの中の特に 13 歳から 18 歳を対象としたサービスをさし、略してＹＡ（ワイエー）サービスと呼ぶ。

31　西東京市図書館資料収集基準（ｐ22）

平成 13 年(2001 年)に策定された、西東京市図書館で資料を収集する際の指針となる基準。第一（資料収集基本方針）第二（資料別、対象別収集方針）からなる。

32　絵本と子育て事業（ブックスタート）（ｐ22）

絵本を通じて親子の触れ合いの大切さを知ってもらうために実施する事業。平成４年（1992 年）にイギリスで始まり、日本では平成 12 年（2000 年）に杉並区で試験的に実施されたのが最初となる。西東京市では、平成 15 年（2003 年）６月から３・４ヶ月児健診時に実施され、事業の説明や図書館案内、読み聞かせ講師による絵本の読み聞かせの実演等がある。参加者には、絵本・小冊子「はじめまして～赤ちゃんにおくる 30 冊～」・図書館利用案内等のはいったオリジナルバッグがプレゼントされる。

33　「はじめまして～赤ちゃんにおくるえほん 30 冊～」（ｐ23）

０歳から２歳の乳幼児を対象とする、おすすめの絵本 30 冊を紹介した冊子。児童サービス担当だけでなく、市内の地域ボランティアの協力を得て選定し、絵本と子育て事業の際、全参加者に配布している。

34　おはなし会ボランティア養成講座（ｐ23）

西東京市図書館は、児童サービスの拡大充実のために、市民と協働している。その一環として、図書館のおはなし会で、絵本の読み聞かせ等を行うボランティアを養成するために実施する講座。内容は、絵本の読み聞かせについての講義・実演のほか、ボランティアとしての心構えや注意点等。過去３回実施。（平成 19 年度・22 年度・25 年度）

35「えほんだいすき　３さい～５さい」（ｐ24）

３歳から５歳の幼児を対象とする、西東京市図書館員がおすすめする絵本 30 冊を紹介した冊子。市内各図書館で配布している。

36　図書館の時間（ｐ25）

市内の保育所（園）・幼稚園・小学校など、園児、児童が直接図書館に来館し、図書館員が利用の仕方の話をしたり読み聞かせをしたりする。児童の登録、貸出しなどをすることもある。

37「ＣＡＴＣＨ（キャッチ）」（ｐ27）

Ａ５版８ページ、年３回発行の西東京市図書館ＹＡ情報紙。「ＹＡ！ＹＡ！（ヤイヤイ）ペーパー」を紹介する「ＹＡ！ＹＡ！ひろば」や児童サービス担当がおすすめする本のコーナー、新刊紹介等が掲載されている。平成 23 年度からＹＡ世代と共同編集をしている。

38　「ＹＡ！ＹＡ！（ヤイヤイ）ペーパー」（ｐ27）

ＹＡ（用語 30）世代の図書館利用者に対する、情報交換のためのＡ４版の用紙。ファイル

に綴じて自由に見ることができる。絵やおすすめの本、自分の悩み・思いなどが自由に書かれ、それを読んだ感想や意見などが追加され、交流の場となっている。

39　「ドキドキわくわくあたらしい本」（ｐ29）

隔月で発行している絵本・低学年・中学年・高学年以上の新刊を児童サービス担当が厳選し２冊ずつ紹介したリーフレット。

40　「ドキドキわくわく１年生号」（ｐ29）

児童サービス担当が１年生におすすめの本の紹介と図書館利用案内を作成したもの。市内の新１年生の児童に配布。

41　「夏休みすいせん図書」（ｐ29）

夏休みに小・中学生のための読書案内として児童サービス担当が、毎年新刊を中心に選書し作成したもの。西東京市内の全市立小・中学校の児童・生徒に配布している。

42　「宿題のしらべ方」（ｐ29）

小学生の子どもたちに、自分で本を探し調べものができるように案内する手引きとして西東京市図書館が発行する冊子。本の紹介をしながら、図書館内で利用者用コンピュータを使って図書館資料を検索できることを説明している。

43　「で・あ・い」（ｐ29）

西東京市図書館が 21 年間発行してきた「夏休みすいせん図書」をはじめとし、これまで発行した本のリストを基に、平成 23 年２月に児童サービス担当が選書し作成した冊子。主に小学生向け。

44　「道しるべ」（ｐ29）

西東京市図書館が 21 年間発行してきた「夏休みすいせん図書」をはじめとし、これまで発行した本のリストを基に、平成 23 年２月に児童サービス担当・ＹＡサービス担当が選書し作成した冊子。主に中学生向け。

45　「布の絵本」「さわる絵本」（ｐ30）

「布の絵本」は、布にアップリケをぬいつけたり、スナップやファスナーでくっつけたり、はがしたりできるようにした絵本。読むだけでなく、触っても楽しめるので、障がいのある子どもはもちろん、すべての子どもが楽しめる。

「さわる絵本」は、布や毛皮・ビニールなどの材料を使って、実際の絵本の絵のかたちを切り抜き、貼り付けた絵本。触ることで、絵のかたちがわかり、絵本を楽しめるようになっている。主に視覚障害の子どもが利用するため、文には点字が補記してあるものが多い。

46　ハンディキャップサービス担当（ｐ30）

通常に書かれた文字や印刷物を読むことが困難な方や、様々な障がいによって図書館を利用できない方への各種サービスを担当する職員。

47　デイジー図書（ｐ30）

音声をデジタル化して、ＣＤ－Ｒに録音した図書。１枚で長時間収録が可能なほか、頭出し機能があり長期保存にも適している。パソコンや専門の読み取り機により、聞くことができる。

第２期西東京市子ども読書活動推進計画
２年間の成果と課題
第３期推進計画の策定に向けて
（報告書）

平成 26 年３月

発行：西東京市教育委員会
編集：西東京市図書館

〒188-0012　　東京都西東京市南町五丁目６番 11 号
ＴＥＬ　　０４２－４６５－０８２３
メールアドレス　libmaster@city.nishitokyo.lg.jp